明治二十二年十二月二十八日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十三年十二月十八日内務省許可（廿日發行）

大正二年九月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百八十六號

婦人衛生雜誌

第二百八十六號目次

私立大日本婦人衛生會

十月例會通知

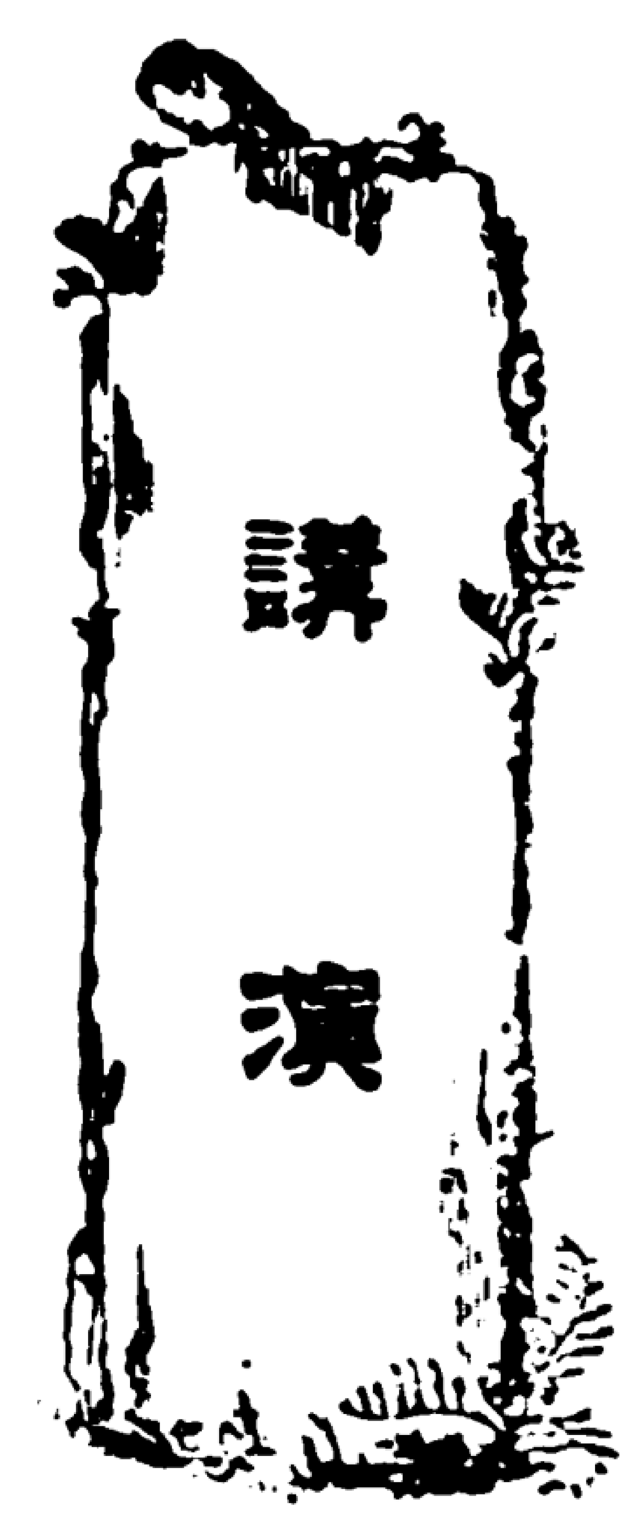
來る十月四日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會相開き左の講話有之候間御知友御誘引御來會被下度候也

一、新しい女　中島德藏君

一、妊娠、分娩及び產褥の攝生法　醫學博士　樋口繁次君

大正二年九月

私立大日本婦人衛生會



ドレスデン萬國衛生博覽會見聞談

藥學博士　石津利作

石津博士がドレスデン萬國衛生博覽會の委員として本邦より參列せらるゝや歸朝後直に本會の爲に一場の講演を乞はんとは本會の初より切望したる所なりしも種々の事情の爲にその機を逸し本年漸くその素願を遂したるものにて頗る時期を失ひたるの嫌ありと雖も讀者を裨益するの點に至ては亦新なるものあるべきを信ず、只多數所要の圖畫標本を悉く省略せざるべからざりしは該講演に列席せられざりし人々の爲に甚遺憾とする所なれども亦止むを得ざる次第なり、讀者これを諒とせられんことを（記者）

御承知の通りドレスデンの萬國衛生博覽會は、一昨年のことでありまして、もう話が古臭くなつて居りますが此迄人が餘り話して居ない樣な事をざつと寫眞や繪圖に就て御話致したいと存じます。

獨逸は御承知の如く衛生の本場でございまして今日迄衛生思想の普及に就きましてはいろ〳〵と工夫を廻らして、種々の方法を取つて居ります、例へば通俗衛生叢書のやうなものを拵らへて、それを全國一般に賣らせ、成るたけ多數の人に讀ませて衛生上の知識を注入するとか、或は又通俗衛生講談會のやうなものを催して、實物標本や又は繪圖などを示し又時には之に幻燈を交へるとか何とかして素人に極く簡易に衛生思想を注ぎ込むとか、此外いろ〳〵衛生に關係した事柄を素人に實習して見せるといふやうなことをも行つて見たことがありまして、皆何れも多少の效果はありますが、成るたけ多くの人に衛生思想を普及さすといふには是等は未だ十分の方法ではありませぬ、處が何處か獨逸なら獨逸の最も交通

の好い、人の成るたけ多く集まる所に常設の衛生博物館のやうなものを拵らへ色々の材料を陳列して、成るべく多數の人に見せるといふ方法は衛生思想を普及さすと云ふ目的に適つて居るものである、此考は誠に結構ではあるがさてさういふ風な材料はなか〱一朝一夕には集まらないし金も多くかゝることであるから獨逸の衛生當局者も色々の方面から考へて、成るべく多數の人に見せ或は聞かすには、猶且博物館でなしに博覧會が一番好いだらう、といふので愈〻一昨年獨逸のドレスデンに萬國的の衛生博覧會を催すことになつた次第であります、御承知の通り博物館といふと陳列がじみであるからどうも乾燥無味に陥り易い、例へば上野にある帝國博物館の如きも種々有益にして貴重な材料が陳列されてあるに拘らず、東京の人は珍しい内は一度は行くでせうが何か調べ物があつて行くなどゝいふ人は極く僅かで、折角の博物館も餘り利用されて居ない、丁度田舎者の行く處のやうになつて居つて、土地の人が手近にあるに拘らず餘り行かない、それと同じやうに常設のものであると人氣を集めるには不適當であります、是に反して博覧會になると、何か珍らしい物があるだらう、變つた物が陳列してあるだらうといふので、ツイ好奇心に驅られて澤山に人が行く、澤山な人が見物すれば從つて其效果も大きいのでありますから、それがよいといふので衛生博覧會案を採用したのであります。尤も萬國衛生博覧會といふ名の附くものは是が初めてゞはありませぬ、餘程以前に英吉利の倫敦で一回開かれましたが、其時分日本からも矢張り委員が三名出まして、日本の風俗衣食住のことを紹介したことがあります、其當時は日本から出品した品物と、倫敦の萬國衛生博覧會に列べてあつた品物とを彼是交換して持つて歸つたことがあります、東京衛生試驗所内の衛生參考館の一部分に陳列してある品物が其れであります、其後伯林に獨逸内國だけの衛生博覧會がありました、其二つ位のもので、今回のやうに大規模の催しは一昨年の

博覽會が先づ初めてゞあると言つてよい位であります、倫敦の萬國衛生博覽會は餘程古いことでありますから、未だ醫學も今日のやうに進歩して居りませず、従つて衛生博覽會の内容とても一昨年ドレスデンに開かれたものとは比較にならぬ位であります、右の博覽會には獨逸が主催者で日本の外に加盟した國は英吉利、佛蘭西、露西亞、墺太利、伊太利、匈牙利、西班牙、支那、和蘭のアムステルダム市などで非常に成功した方でありました。

今此萬國博覽會を何故ドレスデンに開いたかといふと、ドレスデンといふ處は獨逸の少し北に寄つて居ますが、先づ眞中に位し、街が非常に清潔であり且つ美術の都で、周圍には景色の好い所が澤山ある、市の眞中にエルベといふ河が流れて居る丁度東京市中を隅田川が流れて居るやうで此エルベ河がドレスデンに非常に景色を添へて居る、且つ交通の便も好し又有名な繪の博物館があつて、世界で有名なラファエルの描いたマドンナの繪畫もある、又ドレスデンの歌劇は獨逸でも名高くオーケストラは却て伯林の夫よりも優るといふ評判もある位である、是等の繪を見物し歌劇を聞きに皆わざ〳〵遠方より來る位である、郊外のエルベ河の岸に景色の好い處があつて「サクセン國の瑞西」「サクセン國のニッツア」といふ稱がある位さういふ風な所から此處に博覽會を催すことに決まつた譯であります、ドレスデンは先づ日本で言ひますと恰も京都のやうな處で、今お話した郊外のサクセン國の瑞西といふ處は一寸上州の妙義山に水を配して一層景色を添へたやうな處であります、詳くは唯今御廻しました繪葉書で御覽を願ひます。

博覽會なるものはもと〳〵見るもので、人が見て來た話を聽くものではありませぬ、博覽會の内容を一通り順序立てゝお話しても割合乾燥無味でありますから、成るたけ繪のあるものを持つて參りまして、繪で說明することに致します、所が總てに亙つて圖だとか寫眞がある譯ではなく、唯持合ましたものに

就てお話をする譯ですから、自然話が區々になつて餘り順序立たぬことになつて、甚だお聽苦しいことになりませうが、此段は豫めお含みを願つて置きます。

此衛生博覽會の仕組を一寸お話して見ると、此博覽會には他に類例のない一つの特徴がある、之は他の一般の萬國博覽會のやうなお祭り騷ぎとは違つて、種々雜多な品物が順序も秩序もなく澤山列んであるのとは違ふ、同じやうな物を彼方からも此方からも出すのが普通の博覽會にあり勝ですが、萬國衛生博覽會は學術的の博覽會であるから、普通の博覽會と陳列の方法に於て大に趣を異にして居る卽ち博覽會全體を一つの教科書のやうに仕組んである、教科書には第一章第二章といふ風にして其章の中に項分けがしてあるといふ譯で、博覽會全體が一つの教科書になつて居る、それに章や項を區別して陳列をしてあるから色々な材料が澤山あるにも拘らず、少しも品物が重複して居らない、獨逸は御承知の通り理窟ッポイ理論的の國で、何を行るにもチャンと秩序が立つて、整然と行る流儀の國ですから、博覽會も錯雜に物を無闇に方針なくして陳列するといふやうなことは少しもない、くだらぬ物が澤山陳列してあると見物人は肝腎の物を見落すの憂がある、醫學專門の知識のない普通の人にも成るたけ短かい時間に衛生全般の知識が能く頭に這入るやうに陳列してある、是が獨逸の本館の特徴と言つてもよい位である

それから普通の萬國博覽會といふものであると、各國から自分の國の品物を紹介するとか、或は商品の販路を擴張するとかいふ風で多少政略的の意味を以て出品してあるものであるが、衛生博覽會は夫れと趣を異にして、少しもさういふ利益といふことを考へないで各國が出品をして居る、此點が又一つ他の博覽會と違つて居る所であります、獨逸館は色色澤山な部門に分れて居ります、大體どんなものがあつたかといふことをお話します、先づ衛生ですから非常に廣いもので、人間の衣食住の事から其他生

活狀態上の事柄は皆な直接間接に衛生に關係のないものはなく、廣く言へば人間の生活狀態に關係した物全般を含んで居るから、結局普通の博覧會と內容は變らないやうなものですが、學問的に秩序を立てゝ部門を分けて陳列してある、といふことが違ふ、傳染病、熱帶病、生殖器病、齒、癌、それから傳染病の豫防消毒のやうなもの、藥、化粧品、醫療機械、其外溫泉療法、其他の浴療法、唯溫泉場に行つて湯治する許りでなく、近頃歐羅巴では種々な理學的療法が盛に行はれて居つて、例へば日光療法とか空氣療法、電氣療法などゝ色々な療法があります、其療法を行ふ療養地が出來て居る、それから年少者の保護、學校衛生、哺乳兒の衛生、色々な工場に關係して居る所謂工場衛生、其外種々特殊の職業を行つて居る者には、又特殊な病氣が起る、さういふ風なものを調べた職業衛生、勞働者の保護、住居衛生、其中には都市全體に關係した衛生がある、都市、市街といふものはどういふ風に建てなければならぬとか、公園を幾つ拵らへなければならぬとか、家の構造はどうとか、都市全般に關係したもので、町をどういふ風に掃除したらよいかといふやうな事、家屋の建築法、住宅の明りの具合、照光換氣法、暖爐の裝置、給水、水道、井戸水、飲料水をどういふ風にして使ふとか、埋葬及火葬人間の死骸の處置をどうしたら衛生に適ふかといふ事、被服、浴法、風呂屋や水泳などの事、其外飲食物、嗜好品、牛乳、ミルクに關係した衛生遊戲及體育、是等が皆一つ一つの部門になつて居る、又病人の看護、應急手當、市內で誰が電車に轢かれたといふやうな場合に、どういふ風な手當をしてやる、即ち救急治療法です、夫から監獄衛生、其他結核、陸軍衛生、海軍衛生、さういふ風に博覧會全體を十二の大きい部門として、夫れを更に四十三程に小分して、そして色々な物を秩序正しく陳列してある、是は獨逸の本館の事で、其外の外國館も略々夫れと同じ方針でやつて居りましたが素より獨逸本館の如く出品物は澤山はございませ

んでした、此獨逸の本館の中には通俗部といふのがあつて、衛生全般のことが非常に能く分るやうに、極く卑近な例を取つて陳列にも中々工夫を凝してよく素人の頭に這入るやうにしてある、其通俗衛生部の中に人間館といふ特別の館があつて、其館の陳列は大變に能く出來て居りまして大評判でありました、其處へ這入ると專門知識のない普通の人でも、人間の體がどういふ風に出來上つて居るものだか、解剖生理から、簡易な病理から、衛生全般のことがチヤンと能く頭に這入つて來るやうに能く陳列が出來てある。

此の人間館には餘程金と時間とをかけて苦心したもので、何時でも其人間館の室の前には人の山を築いて中々這入れない、それで一定の人員を桝で量るやうにして入れて居りました、入場者の數から言ふと一番人間館が多うございました、其次は日本館で、之も中々評判がよく毎日大入であつたものであります、それで是等を一々お話すると長くなるし、專門的でありますから先程お話したやうに圖に就て出來る丈けのお話をしやうと思ひます、從つて話に聯絡がなく、自然斷片的になるかも知れませぬが、其方が能く皆様にお分りになりませうからさういふ風に致します。

ドレスデンの町に大變大きい公園がありまして、面積から云ふと町の約六分の一位を占めて居る、それは王室附の地で、非常に手入れが屆いて居ます、博覽會を開くに就て王様から特に此公園の一部分を會場に貸渡されたのです、會場は廣くて町の兩側に擴がつて居つて、道路の眞中を電車が通るやうになつて居つて危險ですから片方の會場から片方の會場へ橋を架けて、そして橋の下を電車が通るやうにしてあります、會場の大體の圖は繪の側へ説明を附けて置きましたから御覽になれば分ります。

先程お話した人間館の中にある陳列の一班をお話致します、此處にある繪は、人間館の中で、血液の循環の處です、大きなざつと三百六十五リートル許り

道入る縫があつて、其中に血液の色をした液が一杯入れてある、其下に袷があつて、何を示すかといふと人間の心臟から動脈へ、半時間に是だけの血液を送り出すといふことを説明してある、眞中にあるのは高サ三迷突ばかりの硝子管で、夫から枝が出て先きに「ゴム」の可なり固い厚い球が附いて居て、赤い血液色の液が入れてある、夫れをグツと押へると壓力で約三迷突ばかり液が上る、心臟から體内へ血液を送出す壓力が丁度それと相當するといふことを示したものである、其側にあるのは大仕掛の人體で、心臟から動脈、それから體内へ循環して靜脈へ還る、惡るい血が還る、其血が又心臟へ行き心臟から肺へ行つて好くなるといふ狀態を、大きな硝子製の模型にして電氣仕掛で血液が動く樣に仕掛けてある動脈の血液は赤で、靜脈血は靑色で心臟へ還つて來ると云ふ循環の狀を現はしてある、それで此館の陳列は成るたけ素人に分り易いやうに、といふのが第一の主旨で從つて模型でも裝置でも動かしたり廻したりして見せる、動かして御覽なさいさいといふ風に仕組んであります、日本のやうに「手を觸るべからず」などゝは書いてない、成るたけ手を觸れなさいさといふ仕組になつてあります、是は日本でもさうありたいものと思ふ、獨逸のミユヘンにある博物館はさういふ風な仕組で、機械や何かを模型にして動かすことが出來るやうにしてある。

其次に御覽に入れるのは矢張り人間館の神經系統の部門の陳列であつて、大きな人間の形の三四倍もある圖が畫いてある、其前に電氣の「スヰッチ」が二ツ机の上に置いてある、それを動かすと腦から神經系統の處へ電氣燈がズッとついて、腦から手の方へ行くとか、皮膚の方へ行くとか即ち運動神經、交感神經の働く分布の型を示してある、廣告の電氣燈で字が書けるやうな具合に、「スヰッチ」を動かすと腦から神經の方へ傳はつて行くやうになつて、見物人に動かして見せるやうに出來て居る、其外多數の標本が置いてあつて、誰が見ても人間の體の構造が能く

分るやうになつて居る、哺乳兒の衞生に關係した陳列物で、獨逸と交換したものがあります、それを少しお目にかけます、母親或は乳母が乳を小兒に與へる際に、餘り高い椅子に腰掛けて屈み過ぎるのはよくない、椅子が餘り高いと母の上體が前に屈みますから是れは過まれる姿勢です、それに反して正しい位置で低い椅子に腰掛けて、上體を眞直ぐにして乳を飮ませるのが一番理想的な姿勢で、好いのと惡いのと對照して分るやうになつてあります、乳兒の抱き方に正しいのと正しくないのとある、要するに乳兒の頭と背中を一樣に支へるといふことが必要です子守などを見ると首が後ろへ下つて居るが、頭と脊中へ一樣の力が這入つて首に枕が出來るやうにしなければいけませぬ、是は常識で考へても分ることであります。

今度は襁褓の締め方、西洋の襁褓はどんなものだといふことが此寫眞で御分かりになりませう、それから小兒の抱き方、風呂へ入れる時の注意、頭と脊中を安全に支へてやらなければならぬ、赤ん坊に護謨のおシャブリをしやぶらせる、赤ん坊は乳を飮む代りにそれをシャブつて暫らく安心して居るが、是は往々喉の奧へ這入つて窒息することがあるから危險だといふことを、まあ誰でも知つて居ることですけれども、大きな繪に畫いて一層注意するやうにしてある、牛乳の溫度は母の體溫と同じになれば理想的ですが、之を試すには母親が罎に口を附けて飮んで見るのは宜くない、大人の唾液の中には色々な黴菌があるから、乳兒に傳染する虞れがある、御承知の通り乳兒は抵抗力の非常に弱いもので、大人なら罹らない病氣でも直ぐ感染します、それならどういふ風にして試すかといふと、此繪にあるやうに牛乳の罎を目に當てゝ見る、目は最も溫度を正確に鋭敏に感ずるものであるから、斯う云ふ風にやるといふことを示してある、母親が病氣になつた時分には赤ん坊を何ういふ風に抱くかといふと、鼻から口へ手拭を卷いて抱く、赤ん坊の目、鼻、お尻の邊は無論淸

潔にしてやらなければならぬ、顔や何か擦つた布で目を拭いてはいけませぬ、目から鼻なり額なり、目を中心として拭くやうにする、赤ん坊の臀部を濕つぼくして置くといけませんから、充分注意して乾かして置かなければならぬ、濕り氣を去るもの例へば天花粉などを塗るといふことが極く好いことである。

西洋の婦人は今でもさうですがコルセットで腰を締めます、近頃是は衛生上惡いといふので附けないやうになりましたが、一部の人は格好を好くする爲め附けます、あれで腰を締めますと普通平らになつて居なければならぬ肝臓が横になつたり、此絵にあるやうに縊れる、肝臓のみならず、胃も縛られるし、横隔膜は上に押上げられて内臓は下に押下げられるといふ具合で、呼吸の障碍を來すばかりでなく、消化も惡くなるから從つて全般の榮養が惡くなつて、衛生上非常な害があるといふことを現はしたもので、此絵の一方は、コルセットを始終使つて居つた若い娘さんの、息を吸入れた時と吐出した時、此二つの場合の肺や横隔膜の位置をエッキス光線の寫眞に取つたので、詰り平常通りコルセットを嵌めて居つて息を引入れた時と、吐出した時と又コルセットを外して同じく吸入呼出の狀態を取つたのです、嵌めて居る時分は無論横隔膜が上に行き、呼吸の障碍を來す、縱令其人がコルセットを除つて見ても最初から使つて居らない人とは大變な違ひで、呼吸が障碍されて居る其狀態を現はしたもの、獨逸館では特にコルセットの害を説明する爲め、其害のことばかりを陳列した所がありました。

乳児はどれだけ眠らなければならぬか、乳児は十分長い時間睡眠をさせなければならぬ、生れたての赤ん坊は約二十時間で、乳を飲まない時は眠て居るのが普通です、眠ない子供は何處か障碍がある、生れてから四ケ月迄は二十時間、二三年の子供は十四五時間、四歳位は十一時間、七歳から十歳位は十時間、十四歳位は九時間といふ風にそれが時計に仕掛けて

示してあります、其時間は二十四時間、一から二十四迄あつて、上が晝の十二時下が夜の十二時で、黒く塗つてあるのが眠る時間です、七歳位になつた子供には晝寢させてはいけぬ、七歳位になつたら早起の習慣をつけさせるといふやうなことが、素人に分るやうに時計で示してある、乳兒は健全な母親なら母乳で育てるのが一番よいといふことを示すのに、初め牛乳で育てた時と、同じ子が牛乳を止して人間の乳で育てゝから榮養がよくなつて、牛乳と母乳と非常に榮養に違ひがあるといふことを現はした寫眞があります、牛乳も其牛が少しも病氣のない、極く健全な牛の乳を取つて、それを其儘少しも消毒しないで赤ん坊にやれば餘程よいのです、所が牛乳には結核其外いろ／＼病氣がありますし、搾つたり何かする間に途中何處から黴菌が這入るか分りませぬから、從つて安心の爲め牛乳を煮なければならぬ、煮ると蛋白質が固まつて消化れなくなる、消化を好くする或物質が、熱の爲めに分解したりして消化が惡くなる、さういふことの爲めに牛乳はどうしても人間の乳のやうな譯に行かない、縱令それが人の乳の樣に安心して乳兒に吞まされるにしても、母親の乳といふものは子供を養ふやうに出來て居るのですし、牛乳は牛の子供を育てるのですから無論違ひます、其狀態を現はした寫眞がありますから　それを御覽に入れます、其前に一寸附たりでお話して置きますが、外國の開けた町でありますと、子供預り所があつて、養育院のやうな仕事もする、晝間母親が勞働しなければならぬといふ場合には、朝子供を預けて來て働きに行き、夕方又返して貰ふ、それから養育院のやうに貧民の子供を保護して大きくなる迄育てゝ呉れる、慈善事業でやつて居る所もあり、市で金を出して經營して居る所もある、ドレスデンの町にもさういふ所があつて、其處で貧民の子供孤兒、棄兒、西洋には棄兒は餘りありませぬが、先づさういふ子供を看護したり預つたりする、家庭の都合上子供があつて困るといふ時分に、或る一定の期間預

かる所も出來て居ります、其設備が此處にございます、其附屬として又深森病院の設もあります、ドレスデンの郊外に大變好い森があつて、公園になつて居ります、其森林の中へバラック式の、取毀して他へ持つて行つて又組立てるとの出來る、運搬自在な病院を建てゝ、其處へ連れて行つて赤ん坊を育てる、移動することの出來る病院、丁度戰爭の時の天幕のやうなもの、あれでもつと完全して居る普通の一寸した家で、随意に何處へでも持つて行かれるやう、空氣のよい處で赤ん坊や子供を育てゝ居ります、此繪は森林内のバラックで、白い服を著て居るのは看護婦です、バラックの前の廣場、森の下に赤ん坊を遊ばせて居るのや、寢てるのもあれば乳を飲で居るのもあります、外國では子供を脊負などはしない、必らず乳母車を使ひます、脊負は衞生上から云ふと好くないのですけれども、都合が好いからやりますが、外國では決してやりませぬ、三階に住んで居る人は、乳母車を車ごと持つて下りて、公園などへ連れて行く一日に一度は必ず空氣の新鮮な處へ引張つて行きます、此處はバラック病院の外來診察場です、整形科と言つて、手が曲つたり頸が引吊つたりする、形の惡いのを直す外科で日本の大學でも田代博士がやつて居られますが、是が整形科の體操場で、首を吊られて居る男の子と、ベットの中に眞直に體を伸ばして居る子供もある、澤山の子供が醫者の指揮に從つて體操して居る、是れが乳母の控室です、此方は子供預り場の洗濯場、清潔といふことは衞生に最も大なる要件ですから努めて清潔にしなければなりませぬ是からお目にかけるのは先程お話した母乳で育てた子と、牛乳で育てた子と比較した寫眞であります。

ドレスデンに市立の模範榨乳所があります、此處は十分に清潔にしてありまして、青空に牛を引出し遊歩をさせて居る、牛だつて時々は不潔な牛小屋から青天井に引出して運動させてやらなければいけませぬ、牛乳の話が出ましたから序でに屠牛場の繪を一寸御覧に入れます。

ドレスデンの町に新築された屠牛場は、衛生上の設備から云ふと世界一です、亞米利加シカゴの屠牛場は大きい點に於ては世界一ですが、衛生上の設備其他よく出來て居る點から云ふと、ドレスデンに出來た屠牛場は世界一です、外國のことですから日々隨分澤山の牛や豚、其他の獸類を屠殺します、日本の牛肉が夏どうしてあんなに硬いかといふと、あれは御承知かも知れませぬが、肉といふものは屠牛場で牛を潰して其肉を直ぐ食べたら硬いに定まつて居ります、それを或る一定の時日置くと、一種の醱酵を起して其肉が軟かくなり味もよくなる、所が日本の設備では冬はいくらか貯へて置けるが、夏は屠牛場から肉を持つて來て、肉屋にブラ下げて三四日も置くと腐るから、新らしい肉を直ぐ食べなければならぬ、肉は新らしい許りが能ではなく、適當に軟かくなるまで、腐らせずに貯へて置いたのを食べるのがよいのです、所が斯ういふ風な完全した屠牛場へ行くと、屠牛場の中に冷藏庫がチヤンとあつて、其氷室の中へ屠つた牛をブラ下げて置く、肉屋は其冷藏庫の一室を番號を附けて借りて、其處へ自分の肉を貯へてある、一週間位置いて相當に醱酵さして肉が軟かくなつた時分に市場に持出す、斯ういふ設備でなければ其軟かい肉は食べられませぬ、肉の卸し賣や取引も此冷藏庫でやるのです。

先程住居の衛生の時分に市街の掃除のことを申ましたが、外國では何處でもアスパルトの敷いてある町であると、夫れを大きなブラシのやうな物で水を撒いて、ゴロ／＼道を掃除して行く、さういふ風な色色便利な裝置がありますから、總めて御覧に入れます。

其次には自働車をいろ／＼運搬に用ひる狀態、例へば家畜を屠牛場其他市街へ引張つて行く時分、或は病人を運搬する時分に自働車を應用する。是れが市街の撒水自働車、一人で自働車を運轉して引張つて行くと、四方八方から水が噴水になつて出る、又火事の時に使ふ防火用の蒸汽喞筒も自働車で行きます

此方の寫眞は墺太利維納の篤志應急治療會社と云つて、應急手當をする爲めに出來た篤志の會社で、自働車に轢かれたとか、川に落ちて溺死したとか、子供が怪我をしたとかいふやうな時、醫者に駈けて行く迄の應急手當をする會社です。

それから一寸面白いのは炊事車といふのがあります、臺所道具一式装置してある車で、それをツーと押しさえすれば、何處でも何人前の炊出しでも出來る、是は病人を運搬する汽車です、日本では病人を運ぶには擔架で擔がなければならぬが、吾々は擔架で擔がれるのは餘りいゝ氣持はしない、擔架の上等なのがあれば未だよいが、そんなのはありませぬから、上流社會の人はつい車に乘つたり何かして、それが爲め病勢の重ることがある、それが外國では病人を運搬する馬車でも自働車でもチヤンと出來て居る、而も最も進歩したのは寢臺を直接車臺上に置かずに、宙に浮かせて動搖を避ける、丁度ハンモツクの様に馬車の中に吊つてあります、もう一つお話したいのは、溺死者を救助する装置がチヤンと出來てある、向島なら向島の川淵に浮子がブラ下げてあつて、誰か溺れた時分に居合せた者が其浮子を直ぐに投げて救助することが出來る、それから町の中に郵便函が所々に立つてあるやうに、擔架を入れてある場所があつて、誰でも開けて使ふことが出來、それを借りて適當な所に連れて行く、溺死者があれば直ぐそれを開けて乘せて行かれるやうに、誰が使つても構はない公衆用の機關です。

茲に博覧會の會場の寫眞がありますから御覧を願ひます、外國館は皆其國得意の建築で、建築の具合の一班は分ります、是が日本館で御殿風な造りです、大學の伊東忠太といふ人が設計して獨逸に送つて、獨逸の材料を使つてこしらへたのですが中々好く出來て居ります。

次に湯治のお話を一寸致します、溫泉療法として珍らしい方法が一ツあります、それは泥浴と云ひまして、町の中にあるやうな泥ではなく、沼の中の泥の

やうなのを燒いて乾かし、それへお湯を入れて適當の溫度に溫め、其中へ人間が這入る、泥浴或は沼泥浴と云ひます、日本ではありませぬが泥の中に這入るのですから、普通のお湯と違つて非常に溫まります、殊に婦人病や僂麻質斯によく效きますし、肥滿した人は瘦せると言つて其處へ行くと、何處を見ても獨逸人に多いビール樽のやうに肥滿た先生許り居ります、此處にありますのはエルスターといふ溫泉場の案內記、こちらにあるのは一夏に使ふ泥浴の原料の五分ノ一だけですが隨分澤山あります、一旦使つた泥は棄てゝ仕舞つて次の人が又這入るなどゝいふことはしませぬ、ヌル〳〵した沼の泥のやうなのですから、中々水位かけても落ちない、それへ首まで浸かる、私も這入つたことがあります、泥ですからズーッと這入ると體が泥の中に浮く、溫度を何度にして與れといふと、一定の溫度にして與れますから其處へ這入ると非常に氣持がよい、詳くは圖で御覽下さい溫泉場で冬の寒い時に肺病患者を室の外へ出して、廊下の冷たい風の當たる所へ寢せて置く、斯う云ふ療法があります、肺病患者を寒い所に置いたら非常に重るだらうと思ひますが、醫者が附いて天氣の好い時に吹曝らしの所に列べて寢せる斯ういふことが大變病氣に效きます、此繪はそれをやつて居る所です。

外國では水泳を體育の目的に盛んに奬勵して居る、例へば向島の隅田川のやうな所に、澤山水泳場がある、男子の水泳場は東京にもあるが、婦人の水泳場は出來て居りませぬ、海水浴場では婦人でも稀に泳ぐ人もありますが、水泳場へ通ふなどは日本にはありませぬ。西洋では女でも種々の體育を盛んに行る、海のない所の町の眞中で海水浴に行つたと同じやうなことが出來る設備がある、此繪にあるのは墺太利の維納を流れて居るドナウ河を利用して、こしらへた水泳の公開場です、其處へ行くと海水浴へ行つたと同じやうに水も鹽辛くしてあつて砂にまみれたり體操したり、裸體でコーヒーを飲んだり飯を喰た

りして遊んで居るが、風邪を引くなどゝいふことはない、家族浴に於ては男も女も一緒になつて遊んで居る、裸體で飮みに行くコーヒー店のやうなものも出來て居る、日本でも婦人方に運動を勸めたいと思ひます、西洋の婦人が體育を盛んにやる一班を御紹介しますると、少し大きい町へ行くと川へ行かないでも町の中へ大きな風呂屋のやうな水泳場が出來てあつて、水も深く、上から飛込むことも出來、男浴と女浴と區別して水泳の稽古や色々な遊戯がやれるやうに出來て居る、金も隨分かゝるでせうが、冬でも夏でも年が年中泳ぎに行かれます、冬は水の溫度を溫める、夏は婦人方でもテニスをやるし冬は氷滑りもする、氷滑りの外に雪靴を穿いて所謂スキーを盛んにやる、伯林の町などではアスハルトを敷いた町をロールスケートで一滑りに五間程行くから非常に早い、小兒のする遊戯で體育の目的に出來てるのですが、日本では危ないから禁じてあります、スキーといふのは一間程ある雪駄靴の眞中へ足を固定して長い金剛杖の樣な物を突いてフカ〳〵した雪の上を上つたり下りたりすることが出來る、先頃富士山をスキーで登つたといふことが新聞にもありました。

此處にある繪は體操です獨逸の大抵な町には公開の體操場が出來て居て、室内にブランコもあれば何んでもあるつまり雨天體操場といふやうなものもチャンと附いてある、其外一週間に一定の日を定めて學校の體操場を公開して、勝手に人が運動をやる所もあります、是の繪は伯林の體操倶樂部の百年祭の時に、一萬人の部員が體操して居る所です。

博覽會の餘興部の中には波動游泳場といふものがありました、其は此室の半分位の大きな室で海水浴の樣に、底を淺い所から深い所といふ風に斜にして、機械で深い方から淺い方へ人工的に波を起し、實際の海岸に行つたと同じ波動の起るやうな仕組になつて居ます、博覽會では男子と女子と別にして幾何かの入場料を取つて入らせ、又見物もさせる、其建物は天井は帆木綿で他の物も皆取外しの出來るやうにし、

下だけタ、キにして、詰り浴槽さへこしらへれば何處へでも持つて行けるやうにしてあります、波に打たれるのは水マッサージと言つて、水に身體をマッサージさせて居るやうなもので、血の循環を好くし、肥滿つた人の瘦せる療法にもなります。

近頃歐羅巴には冬季になると盛んに運動することが流行する、暖爐にばかりカヂリ附いて居ず、雪を冒して山へ登つたり氷滑りをやつたり、雪靴を穿いて運動したり、盛んに冬季の遊戲を奬勵して居ります、是の寫眞は獨逸のリーゼンゲビルゲといふ所で冬季の遊戲をやつて居る所です冬の雪景色は中々痛快なもので、北國の方は御承知かも知れませぬが、一面に眞白で、木の枝に溜つた雪が凍つて特別の姿をして居る樣子は非常に美觀であります。

次に服裝のことを一寸お話します、歐羅巴の婦人の服裝は日本などより無論流行の變化が盛んでありまして、日本婦人の服裝は地質や柄合等は變りますが、截方、仕立方などは變りませぬ、所が西洋は地質が變り柄が變り仕立が變る、まるで根本的に變るのですから、流行を追うて行つた日には際限がないが、流行を追はない人でも日本よりは甚だしい、此頃はだん／＼婦人の服が裾が狹まつて來ました、昔は成るたけ、廣がつた裾が流行したが、だん／＼變つて狹いのが流行るやうになつて、隨分極端に狹いのを著て居るのがあるから、終いには男子のヅボンを穿かなければならなくなるでせうといふことを諷した繪が、一つ此處にあります、非常に裾が狹いものですから自働車の乘降には可なり困る、又衞生上から言つても無論よくない、服裝もよく注意しないと衞生上大關係のあるもので、夫が爲め榮養を害し身體の發達を害しますから、唯流行ばかりを追うて衞生のことを顧みないのは甚だ宜しくない。

此處にあるのは西洋婦人が流行の大きな帽子を冠つて、裾がこんなに狹まつて實に滑稽極まる姿を示したものです、流行を追て行けば終ひにはどんなものを著なければならぬか、肉屋の女中は豚の鹽漬の足

やうなヅボンを穿くやうになるだらう、電話交換手は電話の鈴のやうなのを穿くだらうといふやうな、諷刺畫です。

茲に一つ御退屈でせうから博覽會の餘興部のお話をしませう、歐羅巴人の中でも獨逸人といふと非常に音樂が好きで、動物園でも植物園でも人の集まる所は皆小音樂場があり、音樂の響が耳に這入つて居なければ承知しない、博覽會の中にも諸所に奏樂堂が出來て居て、其處へコーヒーを飲む時分、軍樂隊がやつて來て、午後四時に音樂が始まる、町の人で博覽會を見に來ないで音樂を聞きに入場する人が澤山ある、此繪は伯林動物園の奏樂堂の前に、澤山の音樂好が珈琲店でコーヒーやビールを飲みながら、盛んに聽いて居る所で、日本の日比谷音樂堂の淋しい比ではない、博覽會場の中にも餘興部がありまして、活動寫眞、曲馬、演舞場操人形、人形芝居といふやうなものがありました、其中に廻轉圓盤と言つて、直徑凡そ二間半位の板がある、其上に人が乘ると獨樂のやうに廻るから、遠心力で跳飛ばされるのを跳飛ばされまいと思つてカヂリ附き合ひながら跳飛ばされて居る、向ふの人は大人でも誠に無邪氣なもので、こんなことをして戯れて喜んで居ます。

日本館にはどういふ物が陳列してあるかといふと、衛生試驗所の參考會にも少し當時陳列した模型がありますが、此處に大體の繪がありますから御覽下さい、日本の服裝を表はす爲めに三越から人形を出品しました、安本龜八作の實物大の人形で、旦那と奥樣孃樣坊ちんの形、それへ三越で現代風に著物を著せて、日本館の眞中に陳列しました所、何しろ珍らしいから之が一番の呼物になつて、其前はいつも人で動けないやうでした、外國人は今迄日本の人形では皆目の吊つた昔の武士のやうなものばかり見て居つたものですから、大變に夫れがよかつたのです。

是は外國の墓場であります、こちらは色々の石を使つた非常に立派な墓場ですが、こちらにあるのは下等社會の墓場で、土が高く盛上つて居るばかりです、

眞中にあるのは、日本婦人の墓場で、ドレスデン博覽會開會中、日本の藝者と稱して居ましたけれど、實はたゞの女が餘興に手踊をやつて居たのです、是が盲腸炎に罹つて入院しました、其時分博覽會は閉ぢられて、ドレスデンに殘つて居る日本人は、私と私の友達二人きりでした萬里の異鄕で病氣になり同胞の見舞に來るもの一人もなく言語は通せず定めし心細い限りだらうと思ひ可憐さうでしたから病院に見舞てやりましたが、一週間程で死にましたので、此處の墓場に埋められたのです、彼地にも丁度日本の彼岸のやうな日があつて、ほう〴〵から墓參りに行く、私も其娘の兩親に送つてやらうと思つて此寫眞を撮つて來ました、是で見ると花があつて大變立派に見えますが、私が寫眞を撮らうとしたところ、墓守の娘が他家の花を持つて來て飾つて呉れたのです。

茲に一つ私が感心したことは、日本では足が片々無いとか腰に腫物が出來て働けないとかいふ人は、始終家に閉籠つて居なければならぬ、氣霽らしに外へ出ることは出來ない、歩けないやうな人を車に乘せて家族の人が公園に連れて行くといふやうなことは餘程篤志な人でなければ稀で、病人も諦めて出やうとしませぬ、所が外國の公園に行くとさういふ不具者の乘る車が出來て居つて、夫れを家族が公園に引張つて行つて新鮮な空氣を吸はせる、又少し手の利く人なら自分の手で動かすことの出來る、自轉車が出來て居る、夫れを操つて自分で何處でも思ふ所に出掛けて行きます。

又醫者が急病の家に馳付ける時、醫者自身で自動車の運轉をやります、直ぐに一人乘の自動車に乘つて病家に行くことが出來る。

だん〳〵便利なものを考へまして、病氣の時ベツトに寢て本を讀むと倦るくなるといふので、日本にもあるさうですが、臥ながら見るに都合のよい簡便な机が出來て居る。

それから蹈むと戸が兩側に開いて又ひとりでに縮る

のがある、外國の料理屋などで給仕や何かゞ兩手に物を持つて、一寸蹈むと戸が開いて締りますから、誠に都合がようございます。

何處か病む場所を暖める時に、燒鹽や蒟蒻などを當てずに、電氣で適宜の處を暖める機械などもありますし、未だ其外にいろ／＼ありますが、時間も移りますから是で失禮いたします、甚だ斷片的な聯絡のないお話をして、お聞苦しかつたでございませうが、其段は幾重にもお詫を致します。

叢談

婦人衛生と精神作用との關係

高島平三郎

人はいつでも境遇から影響されて居るものであります。如何なる場合にも全く境遇から超脱することは出來ません。その影響は身體にも精神にも及びますが、精神の方が一層速かに反應があつてそれが延いて身體にまで及ぶことが多いのであります。市街の騷がしい處に參りました心持と、田舍の寂しい處に參りました心持とは、自然に違ひます。その心持の違ひがやがて身體の機能にも影響致しまして或は身體の狀態が良くなつたり、惡しくなつたりするのであります。都會に住まつて居る人が、偶に海岸などに參りますと、特別に運動せずとも空腹を感じ、食慾を増すのは、空氣の良いといふことのあるのは勿論でありますが、一つは心持の良いといふことが、大なる刺戟となるのであります。それですから、人が若し健康を保たうと思ひ、殊に之を増加しやうと思ふ場合には、自分に適する境遇を選び常の心持の爽なるやうに注意することが必要であります。境遇といふことは、たゞ氣候とか場所とかいふ自然に限りは致しません。社會上百般の事に就いて、

やはり自己に適する良き境遇を作ることに心を用ゐる必要があります。家庭に於て、何か面白く無き事があつて、くよ〳〵と心を痛るやうな場合に、食慾の減ずることは、誰も經驗して居ることでありませう。食慾ばかりではなく、心の狀態如何に由つて、或は頭腦が爽かになり明になつて、物事がよく分つたり、或はその反對に、頭腦が痺れたやうになつて、十分の働をせぬ事もあります。心臟が心の狀態に動かされる事の著しいのは、昔から誰も注意して居た事で、現に心といふ字は心臟の形をそのまゝ用ひたのであります。取りも直さず、古人は心は心臟に宿つて居ると思つたのでありませう。その外肺臟でも腸胃でも皆精神の影響を受けぬものはありません。それ故、衞生に心を用ゐる人は、たゞ自然の境遇を選擇して心持の爽かになることに努める必要があるのみでなく社會上の境遇にも大に意を用ひねばなりません。

併し自然の境遇と違つて、社會上の境遇は、之を自分に適せしめるといふことは一層困難でありまず。貧困に出遇ひ、家庭の不和に出遇ひ、他人の不實の處置に出遇ふといふやうな時に、どうしてその境遇を自分に適せしめることが出來ませうか。これが即ち精神修養の大切なる所以であります。社會上の關係から、同じく他人より面白からぬことを仕向けられましても、之に由つて甚しく自己の心を亂す人と、又それほどでなく心を平にして之に耐へ得る人とあります。前のやうな人は、その爲めにたゞに心を痛めるばかりでなく、延いて身體を害する事は非常であります。健康の勝れた人には、かういふ事は少く、たま〳〵有つてもそれほど著しく感せぬでありませうが、少しでも健康の衰へて居るやうな場合には、喜怒哀樂愛惡等の激情に由つて、身體の機能に影響を受ける事は著しいのであります。それですから、眞實に衞生に心を用ひる人は、精神の修養にも努めねばなりません。いくら自然の良好なる境遇に居り、滋養に富んだ食餌を取りましても、常に

心を激せしめ、或は之を痛めることが多かつたら、何にもならぬことになります。

人々が、自分で自分の心を修養して、何時も爽な心を保ち得るやうに努めることは、前に述べた通り必要でありますが、人の心が斯くまで自然及び人事の境遇に由つて動かされるものである事を知つた者は、他人に對する態度にも大に意を用ひねばなりません。殊に病人とか妊産婦とかいふやうな、精神感動の普通の人よりも著しい者に對しては、最も意を用ひねばなりません。全體婦人の生殖器官は、非常に複雜微妙なものでありまして、その機能の如何は、直ちに精神の作用に影響すると共に、精神上の感動も亦速かにその機能に影響致します。それですから、一定の年齡（平均十四年八ケ月）に達した婦人に、毎月起る特種の生理作用の如きも、その時期の間は勿論、その前後には精神に一種の變化を來し、甚しき場合には平生の性格と全く異つた言行をする者さへあります。教育ある上流の婦人が萬引をするなどいふ事は、何時も大抵この時期に於てする場合が多いのであります。隨つてこの時期に於て、身體上の衞生に注意すべきはいふまでもないことであると共に、精神上の衞生にもよく意を用ひ、あまり強い刺戟を避けるのは勿論、心痛させたり怒らせたりするのは甚だ良くないことであります。つまり此時期には、身も心もすべて安靜にして、常態に復するのを待たねばなりません。

妊産婦の場合には、精神上の影響が一層強烈であつて、而かもそれが胎兒及び產兒に及びますから、是等の婦人に接する周圍のものは、殊更氣を付けねばなりません。妊婦は恰も月經時の連續したやうなものであつて、誰でも妊娠すれば精神に種々の變化を來し、刺戟性になり易い者であります。固より平生に精神修養のあるものと無いものとでは、同じ生理的事情の下にあつても、その精神發動の狀態に著しい差異を生ずるのはいふ迄もない事でありますが、それにしても、妊娠時は必ず精神的影響を受け、僅

かの事にも感動するやうになりますから、その婦人の夫たり殊に姑たる者は、よく〳〵その取扱ひに注意せねばなりません、母の精神感動が、自分の身體に影響することは勿論のことでありますが、之に由りて胎兒の身體にも間接に影響し、これより延いてその精神にまで影響することも爭ふ可らざる事實であります。經驗ある兒科醫の言に、妊娠六ケ月の頃母たる人が非常に心を痛めるやうな事のある場合には、その胎兒に先天性の心臟障碍にかゝるものが多いと申します。昔から稱へられた胎教といふことは、新しい意義に於てこの點からも主張されます。

世間には、妊婦にいろ〳〵精神上の苦痛を與へて置きながら、その生む子供をば健全にして怜悧なれかしと望む者が少くないやうであります。就中嫁を惡む姑などには、このやうな我儘な考を有して居る者があるやうですが、それは甚しい間違であります。丁度親木をいろ〳〵と虐め扱いた上に、何等の肥料も與へず、僅かに枯れぬばかりにして置いて、良き實の生るのを望むのと一般で、到底その目的を遂げることは出來ません。それ故、自分の利害からいふても、妊婦を勞はり、その心身に善良な效果を來たすやうにしてやることは、大切でありますが、取り分け人道上から妊娠した婦人をば、特別に勞はつてやらねばなりません。

産婦が生兒に乳を飮ませて居る間は、妊娠時と同じやうに、精神的感動に就いて特別の注意を要します。産婦に餘り心配をかけたり、強い刺戟を與へれば、乳の出なくなるといふことは、普通に誰も知つて居ることであります。是れは獨り人類のみでなく、馬や牛の如き動物に於てもその通りであります。乳牛をあまり虐待すれば、乳の出が止まるのは著しい事實でありますから、乳牛を飼ふほどの者は、自己の利害から、その取り扱ひには頗る注意致します。然るに人の乳母たる婦人を虐遇するやうな弊風が文明國にもその例の少くないといふことは、何たる矛盾でありませう！乳を飮ませつゝある母を虐めて乳が

出なくなつたといふなら、牛乳で育てゝも濟む故、まだその害が顯著でないのでありますが、母の精神感動がその乳の性質に影響して、之が爲めに乳兒が危險の症狀に陷り、或は一命を失ふたといふ例さへあります。乳兒を有する母ある家庭の者が、その母たる婦人に對する態度に心を用ひる可きは勿論、母たる者自身も、よく是等の事實を知了し、何か烈しく精神的感動のあつて後には、直ぐに子供に乳を哺ましめることなく、一旦よく〳〵その乳を榨りて棄て去り、心の平靜に歸したる後に與へるやうにせねばなりません。

要するに衞生といふことは、たゞに身體の一側面からばかり考へたのでは十分とは申されません。その一面には、必ず精神の影響を考へねばなりません。「バクテリア」とか、「アミーバ」とかいふやうな么微生物の作用で、身體の組織を破壞してゆく病氣は、比較的に精神との交渉が淺いのでありますが、病氣の中でも機能障碍に屬する者は、最も精神と密接な關係がありますから、苟も心を衞生に寄せる人は、是等の事にも十分意を用ひねばなりません。

病原菌の侵入門

井上小七

病原菌はその種類に依て種々の部分から人體に侵入致しますが、今日はその中の一門たる扁桃腺に就て少しくお話を致して見たいと存じます。

扁桃腺と申しますのは、口を大きく開くと咽頭の入口の兩側にある塊で、風を引いて咽喉を痛めたときなどには容易に腫れる所のお團子であります。これが種々の病原菌の侵入門となる場合が甚多いのでありますが、素人の方々は餘り氣が付かないやうである。その證據には少々咽頭が痛むでも一向平氣で放擲て置く、別に療治も致しません、併しこれは場合に依ては頗る危險なことであります。それはこの扁桃腺の普通の機能、學問上並に實地上の經驗を御

聞になれば分かることであります。

從來この扁桃腺普通の機能に就ては二說あるのであります。一說には扁桃腺と云ふものは、身體に病原菌の侵入するのを防ぐ所の防禦器官であると云ひ、他の一說は、これと反對に病原菌の侵入門であると云ふのであります。兩說何れも實事と實驗とに基づいた說である。防禦說の方では、事實上扁桃腺には病原菌の見張番で且つこれを逮捕し、喰ふて仕舞ふ所の白血球と云ふものが絕えず巡廻して居り、これを含むでゐる所の淋巴の流がその表面を灌漑して居る。これに依て病原物の侵入を防ぐものであると云ふのであります。

一方の傳染說の方では、かう云ふ實驗を楯にして居る。それは、黴菌の塊や、色素液のやうなものを扁桃腺に塗るか、或はそれで含嗽せしめて、その後手術的に扁桃腺を切取つて檢査をして見ると、その溶液が扁桃腺の內にある、それでこの器官は病原菌の侵入に直接の關係があると云ふのである。併し他の研究家は斯樣なものは扁桃腺の內には見出されないと云ふ、つまり實驗と實驗との對立であります。此等の實驗に立入つて論ずることは止めますが、私はこの兩說は或意味に於てよく一致して居る說であると思ふのであります。

私自身は防禦說の贊成者でありますけれども、扁桃腺の內に細菌を發見すると云ふことは、これは爭はれぬ事柄であります。結核菌などは別に傷もない腸の粘膜を通るのでありますから、扁桃腺に侵入しないとは申されません。且つ我々の身體の粘膜の中でも、恐らく口の粘膜、口內の器官の表面ほど傷を被むり易い所はありますまい。それですから扁桃腺の深部に黴菌が侵入するのは決して六ケ敷いことではない。感冒に罹ると粘膜は通常の狀態を失ふ、さうすれば傳染を被むるのは何の不思議もないことであります。

扨て普通の「アンギーナ」或は扁桃腺炎と共に始まる所の病氣或はその後に起る所の病氣が種々ありま

す。先づ實布垤里でありますが、これは別に委しいことを申上げません、實布垤里は只扁桃腺及び咽喉の表面だけの病氣でありまして、實布垤里菌そのものは深く這入りません只その細菌の作つた毒が深部までも侵すのであります。猩紅熱と云ふものも矢張扁桃腺の病氣で始て來る。通常の「アンギーナ」即ち口峽炎と云ふものも同樣で一種の全身病と看做される、多數の人は非常に高熱を發する、それで疾病感覺、頭痛、食慾不振等の諸症候が起るのであります。扁桃腺から起る所の重要の傳染病としては、急性の關節僂麻質斯でありませう。咽喉加答兒と關節僂麻質斯との關係に就ては從來幾らも書いたものもあり、又實地醫家は誰でも多少經驗して居ることであります。加之ならず或研究家は、關節僂麻質斯といふものは皆「アンギーナ」を以て始まるものであるとさへ云ふて居ります。又或人は「アンギーナ」は既に僂麻質斯性のものであると云ひ、或は「アンギーナ」には關節僂麻質斯が續いて來るものであると申して居ります。

所が又この關節僂麻質斯が心臟病を起して來ることが多い、而して僂麻質斯が治癒ても心臟病が後に殘る、然るにこの心臟病は、僂麻質斯を起さずに直接に普通の「アンギーナ」の後に起ることもあるから危險である、而して別に心臟の具合が惡いとも氣付かず居るが、その結果として漸次心臟瓣膜病が起つて來るのであります。生來でない心臟病の多數は、斯樣な所から起つたものと考へなければ別に說明のつけやうのないものが多いのであります。

更に急性病に立戾つてお話を致しますと、普通の血液中毒は、矢張この扁桃腺炎の際に病原菌が侵入して起るものが多いのであります。流行性腦脊髓膜炎が流行した際に詳しく檢査をして見ました所が、この病氣の病原物たる「メニンゴコッケン」は、特に扁桃腺の凹凸した部分に多く居つたと云ふことが報告せられて居ります。脊髓性小兒麻痺と云ふ子供の病

氣も「アンギーナ」の後に起ることがある。

それから「アンギーナ」の後には往々腎臟炎の起ることがある。これは醫師も一寸氣が付かぬことがありまして、何時しか慢性になり、一生涯治癒らぬことになります。咽喉炎の際に侵入する所の細菌は、腎臟及び心臟を侵すのみならず、時とすると腹膜、睾丸、卵巣、腸及び盲腸などに參りまして、其處に炎症及び諸種の病氣を起すことがあります、殊に盲腸炎が斯様な所より起つたものと思はるゝ場合が尠なくないのであります。

次に慢性の經過を取る所の病氣では、第一に擧ぐべきものは例の結核であります。肺癆の人の扁桃腺が結核性の變化をして居るのは不思議はないが、結核で死んだのではない、他の病氣の爲に斃れた人の扁桃腺にも往々結核菌の居るのを證明さるゝことがあります。加之ならず顯微鏡で檢査をして見て少しも結核性の模様のない、死んだ人の扁桃腺を「モルモット」に接種て見た所が、十「プロセント」以上は結核に罹つたと云ふことであります。此等の事實から考へて見ますと、扁桃腺が結核菌の侵入門となることは殆ど疑のないことであります。

さうして見れば扁桃腺は、結核には如何に重大の關係あるものであるかゞ分ります。尚ほ小兒の腺病、即ち頸にグリ〳〵があつて虛弱なるものは、彼は大抵結核性のものでありますが、これも通常扁桃腺から始まるのであります。小兒に非常に大きくなつた扁桃腺を見ることの多いのは決して偶然でありません。過度に扁桃腺の發育して居る小兒は實布垤里に罹ることが稀れだなどゝ云ふ人もありますが、これは信用は出來ません、これと反對の經驗もあるのであります。

以上申述べました所に依りまして扁桃腺炎と云ふものは、人の普通考へて居るよりは案外重大な事にもなり、一般に大に注意を要するものであると云ふことがお解りにならうと存じます。總て咽喉が惡くて熱のあるときには、必ず醫師の治療を受くべきもの

である。等閑にするものには忠告を與へなければなりません。治療は醫師の仕事に屬することでありますが、餘り扁桃腺の大きくなつたものは手術的にこれを小さくしなければならぬ、場合に依ては全く除去て仕舞ふことが必要である。この手術は全く害もなく直ぐ出來る小手術であります、而かも患者の爲には重大の意味がある。これに由て扁桃腺の爲に常に危險を有つて居ることを免れるのであります。

育兒

重湯、粥、飯、餅等を小兒に與ふべき時期に就て

醫學士　宇都野研

〔これは本誌第二百八十四號育兒欄「小兒の澱粉消化力」の續きなれば、同號御參照の事〕

前述の如き澱粉の消化力を有つて居る所の小兒に普通日本で使ひますやうな重湯とか、粥とか、飯とか、餅とかいふものをいつ頃から與へたら宜からうかといふことは甚だ困難な問題でありまして、私が爰で申上ぐることに付て多くの異論が御有りになるだらうと思ひますが、皆さんの叱を受けることゝ致しまして、私が委員會の時に申したことを少しく變へまして、それを茲にちよつと申述べたいと思ふのであります。

重湯等の製法とか其稠度に付ては先輩の宮本さんから御話がある筈でありますから私は茲に立入りませぬが、重湯といふものは西洋人の所謂「シユライム」即ち穀粉煎汁といふやうなものとは全く同じ物とすることは出來ない、重湯は其製法上飯粒の壞れたものを含んで居つてさうして、普通の場合には其濃度が少しも一定して居らぬ、或は濃く或は薄くして、其濃度を極めることがなか〱困難である、此重湯を小兒に如何に與ふるかといふのに、私は之を二種

に區別して使つて居ります、重湯を西洋の「シユライム」又は穀粉煎汁といふやうなものと類似に使用するのと、もう一つは離乳期にお粥に先つて與ふるのと二つに分けて使つて居ります、第一に「シユライム」と同一に使つて居る場合には、極めて薄い重湯を造らせる、冷却しても固まらないやうな重湯を造らして、それを「ガーゼ」を二枚合はして漉して、破碎した米粒を取り去りまして其物を「シユライム」の樣に使つて居ります、西洋人が粘滑汁を使つて居りますのは生後三四週或はそれより少しく遲れて牛乳の混和料として使つて居りますが私は西洋人が穀粉汁を使ひます頃、卽ち四ケ月の頃からして重湯の薄いものを濾過して之を牛乳の混和料として使つて見て居ります、其前にも極く稀釋すれば「シユライム」と同じやうに造つても宜いのでありますけれども、往々濃度を誤まることがあるからして、私は四ケ月以後の小兒に重湯といふものを牛乳混和料として使つて居ります、夫より以前には眞の「シユライム」を使つてゐます、「ヲ子パ」といふのは重湯の上層の米粒を混ぜざる所でありまして、是は漉さないで其儘使用することが出來ます、もう一つ重湯を離乳期に使ふには無論漉しませぬで、其儘粥に移る前提として重湯を使つて居ります。

重湯の成分に付きましては私が前に報告いたしました所に色々な人の試驗しました報告を載せて居ります、それを御覽になりますと直ぐ分りますが、水分が九十七%以上に達し、固形分といふのは三%以下しかないのでありまして、此重湯ばかりで小兒を哺育するといふことは出來ませぬけれども今のやうな牛乳混和料として、或は粥に移る階梯として私共は使つて居る次第であります。

次に粥のことを申しますると、粥は我々が與へますのは離乳期に與へるので、離乳しやうと思ふ場合には粥を與ふるのでありますが、此離乳期といふものは學者に依つて甚だ區々で、一定し難いやうな狀況であります、獨逸に於てはツエルニーなどの主張に

依つて六ヶ月七ヶ月位の早い離乳が流行つて居るやうでありますが、我々が實際日本に於て小兒にお粥を與へて見ますると、十ヶ月前後の小兒でないと粥を吐出して仕舞つて食べない者が多いやうに思ふ、勿論西洋で離乳をやります時には強壓的に隨分思ひ切つたことをやつて離乳を強ひて居りますけれども、私共は普通小兒の喜んでお粥を食べる時期は八、九ヶ月、十ヶ月頃であるやうに思ふ、隨つて其頃から私共は與へて居る、元來日本に於きましては久しく人乳を與ふる習慣がありまして、さうして古くから日本に行はれて居る所の魚味祝といふ一種の儀式がありまして、是は甚だ古くから日本に行はれたものであります、魚味祝ひと云つて是は小兒が誕生を過して三歳位になると始めて食物を食べさせる一種の儀式でありまして、鎌倉時代まで斯ういふ式が行はれたので、室町時代からして生後百一日目に斯ういふ式を擧げることになりまして、江戸時代になつてからして百二十日目に行はれるやうになり、舊式の魚味祝といふものは、食ひ初めと名を變へましたが、矢張り單に一種の儀式であつて、之を以て離乳の時期とすることは出來ない、實際日本に於て離乳したのはいつ頃であるかといふと、古い醫者の本などを見ますと大抵門齒發生の頃を以て離乳の時期と致して居ります、それは門齒が生へると子供が嚙むことが出來るといふ單純な考から起つたので此頃から粒のあるものを食べさせても宜いといふのである、然し門齒が生へるのは咀嚼とは何の關係もない事であるが、此頃から唾液の分泌が著しく增加して來るのでありますから、此頃を以て略々離乳の時期とするといふことは全く間違つたことではないと思ひます。

時間がありませぬから簡單に申しますが、飯は能く咀嚼して食べれば決してお粥に劣らないものでありますが、小兒は甚だ咀嚼に慣れないものでありますから、飯を始めて小兒に與へまするのは先程申した臼齒の發生する頃、即ち二年の後半期頃から私共は

御飯を與ふることにして居ります。
それから餅のことでありますが、餅は糯で出來たもので、糯といふものは一體消化が惡いといふことになつて居りますけれども「チアスターゼ」の作用することは却て粳(うるしね)よりも早くて、「チアスターゼ」に依つて糖化されることは確にもち米の方がうるちよりも早い、唯能く停滞するといふのは緻密である爲めに人が之を食ひ過ぎるから停滞するのであつて、其停滞するといふことは矢張り昔から日本の書物に色々書いてあつて、子供には糯を食はしてはいかぬといふことが頻に書いてある、例へば日常食鑑に「時珍曰糯性粘滯難化、少兒病人是最宜忌レ之」と書いてある、昔から小兒には怖がつて餅を食はせなかつたものと見えますが、充分に咀嚼することが出來たならば必ずしも恐るべきものでない、否寧ろ消化の容易なる所の食物であります、併ながら小兒は先程申しましたやうに咀嚼に慣れないものでありますから、どうしても私は飯を食べることに熟してから、即ち二年以後でなければ餅を與ふることは危險ではないかと思ふ、さうして餅のやうなものは初め極く少量から試みなければなるまいと思つて居ります。
尙ほ申上げたいことがありますが、時間もありませぬから是丈けに致します。

呪はれたる兒(其二)

市場鴨村

呪はれたる兒……ア、汝に何の罪咎があるのであらうぞ、塵一本竊みした覺えがあるでもなく況して蟲一匹傷めたといふではなし、母の胎内を出でた其身其儘佛性にも均しき繈褓兒が、未來永遠一生を通じて浮ぶ瀬のない棄兒といふ命名をば背負て立たねばならぬといふはなんたる因果の話であらう、浮屠氏は定めし、かういふ解釋を下すことでありませう、前世の因が今世に果を結んだのであると、さうする

と棄たる親は今世の因で來世には又何人にか棄てらるゝかも知れぬ、觀じ來れば棄兒汝は何たる因果の身である今世では自身が棄兒となり、來世では親が棄兒となるとせば、廣き世の中に汝程薄倖なるものが又とあらうぞ、余は前回に於て棄兒の命名に就てお話することを忘れて居りましたから、聊か爰に其御話を致すことにします。

恰度去年の今時分と心得て居りますが都新聞の讀者と記者の欄に、神田の美倉橋の共同便所に棄てられてあつた女の兒が、美倉橋おべんと命名されて居る、何と深刻殘忍の命名ではあるまいかと記されてあつた、それが全然で養育院の職員が侮辱的諧謔的にでも命名したものゝやうに板橋の讀者には感ぜられて居つたやうでありました、御存じのなき方は東京市内の棄兒はどうしても一旦は養育院へ収容せられねばならぬのであるから、定めし養育院で勝手に命名さるゝであらうと思ひなさるゝ方のあるのも強ち無理ではありません、けれど養育院では棄兒に對して命名する程の權利はないのでありましてそれは區町村戸籍吏の權限内に屬するのであります、今日より十年乃至十五年前に在りましては隨分棄てられた場所に因みて命名されたやうに見ゆるのもあります、例へば本郷元町に棄てられてあつた兒に本郷と苗字をつけたり、寺の門前に棄てられてあつた兒に寺門と苗字をつけたり、品川の高臺に棄てられてあつた兒に高見浪、とつけたやうのもありました、が近頃になつてはさういふ印象的氏名は漸次になくなりまして鈴木とか小林とか渡邊とか伊藤とかいふ世間ありふれた苗字や名前をつけるやうになつたのであります、兎に角今日では印象的氏名を避くる丈の厄は免がれたものゝ戸籍法は嚴として彼等可憐なる棄兒に自己の經歷を掩ふことを免さないのであります、卽ち棄兒の戸籍謄本を取り寄せて見ますれば父不詳母不詳推定何年何月何日生れと記されてあるのであります、父不詳母不詳推定何年何月何日生夫れには相違ないのでありますがこの十數餘の文字は彼

等に取りて何たる不詳の文字何たる苦痛の文字でありませう、憐れこの不詳苦痛の文字は棄兒が生命のあらん限り假令七十になつても百になつても抹殺する譯にはいかぬのであつて、彼等不幸兒をしていやが上にも其不幸に泣かしむるのであります、親の犯したる罪惡が何等關係なき子に祟るのである、而して子が終生親の罪惡に泣かねばならぬ、思へば彼等は親の愛なるもの果して何處にありやと詰問したくなるのでありませう、貧に責められて棄てられたる兒が親を恨むも無理であらうが、親たるものも我が兒の將來に就て斯くまで苦痛を與えつゝあるかを思へば假令貧苦に惱まされつゝも棄つるといふことゝは、單に法律上の罪惡たるばかりでなく人道上の大罪惡たることを覺知すべきである、ツイ二月ばかり以前のことでありますが養育院の病室廊下に於て棄兒が發見されたのであります、勿論黄昏を利用して院内へ忍び入り餘り人の往來せぬ病室の廊下に遺棄したに相違ないのです、宿直の事務員が其兒の懷を調べますとかういふ手紙が出たのであります、即ち其表面には慈善家集團地養生院さま御中と記しあつて其中なる文句は左の如くでありました

絕對絕命親は子を思ふ情子は親を思ふ情世の習ひ吾人知らざることなし、知て其業なさゞるはむしろ知らざる人より其罪深し、然し是れ人世の立所に古へより連いる、(然しより連いるまで意味不明) 其辛慘已むを得ず現在の位置罪は必ず未來に受く決心、厚き篤志の方等○(一字不明)して其養生院たる其名を慕ひ一はん此愛兒御世話ありたし、必ず年月日時間天候を證として尋ねべく幾重にも御世話下され度伏して御願まで、

名は健太郎　亥の八月生れ　實父

(原文の儘)

而して手紙の裏面には『風邪にて百日咳』の七字鉛筆にて書してあつたのです、男の兒であつたが榮養は極めて不良で亥の八月生れとあれば今年三歲であるが、やう〳〵二歲位の體格であつた、この手紙の

文字排列の模様から推せば下級の月給取りか若しくは小資本に失敗したものらしい、が兎に角手紙の上からいへば貧に苦しめられ剰へ妻に別れたものゝ行爲らしい、又養育院を養生院と記してある所やら手紙の表面に慈善家の集團地養生院さま御中と記しありし所を按ずれば、地方の人らしい所も見ゆるが人目多き養育院の構内まで忍び込み、剰へ幾つかの家の棟を越えて奥深く病室の廊下側まで侵入するが如きは様子知らざるものゝ決して爲し能ふ所でない、されど是等の穿鑿は暫時後廻しとして第二の項目に移ることゝしませう、上中流社會の事柄は別に申上る必要はありませんが、下層社會現時の情態と申したら其悲惨さ加減實にお話になつたものではありません、夫婦共稼ですら其日の生活が覺束ないのであります、それに子供の二人もあつたとすれば冬のものは夏質屋へ入り夏のものは冬質屋へ這入つて居るのが通常です、春より夏に移る際と秋より冬に移る際とこの二季に於て竊盗が孰れが多きやといへば开は勿論秋より冬に移る際であります、由來貧なるものは凡ゆる罪惡を醞釀するものです、夫婦必死となつてすら其兒を養育するに容易ならんのであるのに、其片親が缺けたと來たら其生活の困難實に想像以外といはねばならぬのです、余は曾て某貧民窟に於てかゝる話を一婦人より聽いたことがあるのです、『彼れは語るらく私は目下子供五人を抱いて途方に暮れて居るものです、それが誠にお恥しいことではありますが、五人が五人父親は皆異つて居るのです、單にこのことのみ御聽き取りになつたら。なんといふ貞操を無視した女であらう、淫奔放逸惡みても餘りありと蔑如まるゝことでありませうが、私は餘儀なくこゝに立ち至つたのであります、茲に其梗概をお話申せば最初の夫には一人子を遺して死なれました、その時年は未だ若し媒酌するものあつて再嫁しました、間もなく子を儲けましたが夫はその時より放蕩に身を持ち頽しまして飲む打つ買ふといふ三拍手揃つての道樂に忽ち一文なしとなつた揚句、

夫は二人の子供と私とを置殘りして何處にか姿を晦ましてしまいました、女の細腕では到底二人の子供は背負ひきれません子供を棄てるかさもなくば又も男に身を任せねば死ぬより外に道はないのであります、子供を棄つることも出來ず死ぬことも出來ませぬ結果は矢張男に身を任せるやうに立至るのです、二人の連れ子を承知して貰ふてくれるやうな家は素より滿足の家庭ではありません、それも私が絶世の美人で教育もあり萬事に抜目ない程の女でしたなら兎に角、無教育の上に十人並外れの不器量とあつては嫁ぐ先だからとて同様其日暮しのものです、其日暮しのものに連れ子二人を養ふ程の餘裕のないのは當然です、それを承知しながら嫁するといふは向ふ見ずのやうですが、二人も子供を抱いて居つてはトテモ先き／＼を考へて居るやうな餘地がないのであります、日一日と申さうより刻一刻に生命を縮められるのですから畢竟は婦人の貞操問題外に生命を持續せんことを冀ふのであります、三人目の夫に子供が出來て生活に逐はれたとて棄てられ、四人目の夫に子供が出來たとてそれも亦果敢なく棄てられ憐れ五人目の夫に子供が出來き又しても棄てられたのです、かうなりますれば厭が應でも一人でも子供を減す考をせねばなりません、さりとてたゞで子供を貰ふてくれる所はなしさうなれば第一に手足纏ひの乳兒を棄てるより詮方ないのです、世の中で氣狂が怖い化物が恐しいといふても生活に逐れる程苦しく恐ろしいものはありません云々」とこれが下層社會に於ける夫に別れたる婦人の實話である、如此動機に依つて兒を棄つるものもない、とは云へないのである、中には夫に死別した夫に棄てられた然るに手足がらみの子供がある、連れ子して再嫁するは面倒である奉公することは猶更六ケ敷、於是乎淺墓にも兒を棄つる氣になり發覺した曉には不憫にも牢獄の憂き目を見るのであります、が是等の婦人も亦決して尠ないとは思はれないのです、今日の社會政策としては下層細民生活の苦痛をば最少し緩和せしめられ

たいものであります、態々古る下駄を盗んで懲役志願をしたものがあつたといふことを聞いて居ります、一口に馬鹿と申せば馬鹿に相違ないのですが彼等下層細民が如何に生活に煩悶しつゝあるか上流社會の方々にも一つ御研究を願たいものであります。

（以下次號）

兒童救急手當法（承前）

醫學士　藤井秀旭

疼痛

總て痛いと云ふのは知覺神經の刺戟されたといふ證據であつて、子供が痛いと云ひ又は痛そうな表情をすれば、何處かに故障が起きて居るに相違ありません。けれども其の痛みが頭にあるか腹であるか、若しくは歯であるかと云ふ正確なる局部を指示するといふことは子供には出來ないものでありまする又、兩親等が平常頭が痛い〳〵と云つて居ると子供は他の場所が痛い場合も、頭が痛いと云ふ時がありますから、先づ其の場所を確めることをせなければなりません。勿論其の場所によつて其の手當が違ふからであります。

一、頭痛

頭痛の原因にはいろ〳〵ありますれども、傳染病の爲め、酒を呑んだ爲め、血が頭によつた爲め頭の血が少くなつた爲め、睡眠不足の爲め等が主なる原因であります。其の他、他の局部の疼痛に影響されて頭痛のする場合もあります。然し頭痛と云ふ一の病氣がある譯ではないので、他の病氣の隨伴症狀若しくは其の分症として起るものであります。

從つて其の手當も、頭痛の原因によつて迷ふけれども、一般に靜かにして眠らしめ、五官を刺戟しないように注意して、頭を冷し、手足を湯の中へ入れ、項、足の裏、腓腸部へ芥子泥を塗り、或は下劑を呑ませるのであります。然しこれは一般の場合であつて、其の中で多血性の人の頭痛と貧血性の人のとは

其の手當を違へなければならぬのです、多血性の人は多く血が頭へ鬱積した場合でありまして、顏の色が赤くなつて脈が少くなります。この場合には努めて頭を冷すことは勿論、頭に滯つて居る血を心臟へ歸しやるようにせなければならぬ。其れにはチーゲリ氏の方法と云ふので一番簡單であります。

其の方法を申しまするど、頭痛になやんで居る者を臥牀の上い正しく坐らせ、其の傍に懷中時計を置き時間を正確に測ることが出來る樣にして置きます。術者は平手を顳骨の所へ當て頭をつかむ。此の時拇指を耳の後へあたる樣にして耳朶を押しつけたり拇指を耳の中に突込まぬ樣にしなければなりません。術者は自分の肘を腋窩へつけ、力を入れて注意しながら頭を凡そ一寸ばかり上げる其の時間一二分間であります。頭痛が止んだといへば直ぐ止ねばなりません。貧血質の人の頭痛は心臟から頭へ血が屆かないのでありますから、コーヒ其の他の興奮劑を呑まします。然しこれ等は單に應急の手當に過ぎないので、頭痛にはいろいろの原因がある。其の本症を確めて治すことが大切であります。

二、齒痛

子供に一番多い病氣は齒痛でありまして、又、齒は一番病氣に罹り易い處なのであります。日本の小學生の統計によつて見ても百人中で五十人までは蟲齒がある。これは未だ少いので、西洋では百人中九十人までもある。これは一に齒の養生の惡い爲めであつて、素人は柔かい物さへ食べさせて置けばよいと思つて居るようですが、それは反つてよくないことで、固い物をよく嚙むようにするのが齒の養生によいのであります。又、蟲齒は單に齒の痛みだけではなく、蟲齒から結核性黴菌が身體へ入つた爲め、肺病を引き起すことでもある位ですから、これは十分に注意して、平常から齒の養生をさせなければなりません。

レーゼル氏と、イエセン氏と云ふ人が齒の養生に就いて十ケ條の訓誡を述べて居ります。極めて適切な

言葉であらうと思ひますので、同氏の言を引き來つて、齒の養生法の說明に供して置き度いと思ふ。

一、平生顏を洗ふよりも齒をお洗ひなさい。

二、子供には乳齒の時代から、齒の養生法を敎へて置きたい。

三、甘い物や柔い物を過度に與へてはならぬ。

四、朝夕二回は必ず齒を磨け、朝よりも夕方はもつと大事に磨きなさい。

五、齒が健全であると云ふことは、身體の健全な證據で、齒が惡ければキツト胃腸が惡くなる。

六、齒を健全にするには常に掃除をせなければならぬ。其の楊子や磨粉を非常に注意せなければならぬ。

七、年に二度位は必ず醫者に診察を乞ひなさい。

八、若し惡い處があれば直ぐに治療なさい。

九、若し蟲齒が出來たら、直ぐ入齒をなさい。然し入齒をしても、生齒よりも自由でないから、痛むからと云つて直ぐに拔くのはよくない。

一〇、齒石のたまつた場合には直ぐに御取りなさい。

以上は平生から、養生法であります。これだけ嚴格に勵行して居ましたならば、大體は齒痛を起しません。

今、齒が急に痛み出した時の手當を少しく御話して置きます。それは、微溫湯、食鹽、硼酸、鹽酸加里等で嗽をさせ。これで治らなければ、溫罨法をやる。冷たいものは其の當時はよいけれども直ぐまた痛くなりますから、溫い罨法をする。そして齒の根へヨヂウムチンキをつけるこれで治らなければ醫者へ行くより外ありません。

三、咽頭痛

これは子供に餘程多い病氣でありまして、主としてジフテリヤ、扁桃腺炎等に原因するものであります。若し喉に白い斑點が出來て居れば、それはジフテリヤで、若し赤くはれて居ると、扁桃腺炎であつて、物を食べると咽喉が痛むのでありますから、咽

喉が痛むと云ふような時は直ぐに氣を附けなければなりません。又、子供は此の場合に耳が痛いようにも云いますけれども、多くは耳ではない咽喉でありまするから、これ等もよく注意をして直ぐに醫者へ行くことを怠らないようにすることが大切であります。

四、腹痛

腹痛には、胃痛の場合と、疝痛の場合との二種がありまするが、子供に多くは蛔蟲の生じた場合でありまして、學校などでは、よく机の角へ腹部を押しつけて苦んで居ります。其の時に眼を見ると、眼緣が黑くなつて居ります。其の他、芋のような瓦斯の出來易いものを多量に食つた時にも起ることが多い。これには溜つて居る瓦斯を腸から排出する手當をせなければなりませんが、兎に角腹痛の一般手當としては、溫石、濕布等の溫罨法で腹部を溫めてやることであります。

疝痛とは一般に云ふ癪でありまして、これは腹痛の中でも殊に苦みが多いのであります。其の原因には種々ありますけれども、腐敗したサイダー其の他の清流水を呑んだ爲め、或は瓦斯の溜つた爲め、鉛の中毒の爲め等で、腸の痙攣を起すのであります。この場合にも腹部を溫め、若し出來ればリスリン灌腸をし若しくは五勺位の水で灌腸をする。それで治らなければ醫者へ行かなければなりません。疝痛の中でも殊に膽石疝は容易に治らない病氣で、醫者でもモルヒネ注射をして、漸く救ふと云ふ程に重症な病氣でありまするから十分注意せなければなりません。

五、胸痛

胸の痛いのにも、肋膜炎の場合と、肺の場合と肋間神經痛の場合とがあります。就中肋膜炎が一番多いので、其の徴候としては、胸が刺さるように痛く、そして胸苦くなつて來て、目まいがする。其の手當は氷罨其の他の冷罨法を施するのであります。こゝに注意すべきは、同じ胸痛でも肋間神經痛の場合の

は冷してはならないので、温罨法を施さなければならぬ。故に胸が痛いからと云つて直ぐに冷したり温めたりしてはなりませんよく其の原因を確めて、然る後に適當な手當をすることが大切であります。肺の爲めに胸が痛むといふのは、餘程重症になつて居るので、初期には先づないものであります肺の爲めに胸の痛ひ時も矢張温罨法をする。一般に肺は、其の患者の咳、痰を注意すれば左程傳染するものではありません。

これで内科的方法の大體の講習を終つた譯であります。最後に家庭なり學校なりで平常、備付けて置くべき藥品を一通り申上げて此の講習を終り度いと思ふのであります。

(一)ホッフマン氏液(アルコールエーテル混合體)(氣附藥)

これは氣附藥で大人ならば、十滴乃至四十滴を砂糖水へたらして與へます。

子供は五歳位乃至七歳位には大人の三分の二若し一度できかなければ、もう一度與へるのも差支がありません。

(二)硇砂精(氣附藥)これは嗅がせるのである。

(三)酢を二勺程、一日分の藥ビンに入れて、それを灌腸する(氣附藥)

(四)芥子泥(誘導劑)

これは前來度々話しましたように足の腓腸部に塗るので、頭や肺に寄つて居る血を、塗つた場所へ下げる爲めであります。芥子泥の製法は、普通の食匙で二三ばい程の芥子をなまぬるの湯で練り、それを麻か木綿の切れに塗つて、必要な局部へ貼るのです。然し子供には餘り濃いのはよくありませんから、適當に薄くすることが必要であります。

(五)軟膏類

これにはいろ〱な種類がありますけれども一番簡單なのは、硼酸軟膏とサリチール酸軟膏とであります。これは調劑したものを買つて來る方が便宜であります。

(六)酒精(消毒劑、鎭痛劑)

これには(一)エチールアルコホルと、(二)メチールアルコホルとの二種があります。第二の方は近來大變にやかましくなつて來た木精アルコホルと云ふ方で、これは使つてはならぬ。一般に藥用として使ふのはエチールアルコホルに水を半分ばかり混ぜたものであります。

(七)齒痛の藥

これは醫者に賴んで調劑して貰つた方が安全であります。

(八)重曹（重炭酸ナトリウム）

これは胃の惡い時に呑む。

(九)醋酸礬土水（冷藥）

これは火傷をした場合など凡てひやしてよい場所へ濕布するので、備え付けて置く時は八プロセントに溶して置いて、使ふ時にこれを二プロセントにしてつける。

(一〇)一%の鉛糖水（冷藥）

これも(九)と同じく炎症の藥品で、冷し藥であります。

(一一)二%リゾフォルム溶液（消毒藥）

(一二)デルマトール

これは同じ消毒藥であるが、粉になつて居るものであります。

(一三)絆創膏

(一四)繃帶

(一五)ガーゼ

(一六)吸入器

これは學校等では左程必要ではありませんが、家庭には是非備付けて置く必要があります。

(一七)灌腸器

これは家庭には勿論、學校にも備付けて置くようにし度いと思ひます。

其の他、幼稚園などで子供の使用する玩具、積木、石盤等は常に消毒することが大切であります。それには、

(一)ホルマリン蠟燭

室内消毒にはこれが一番簡單であります。其の蠟燭は日本橋の三共合資會社で發賣して居ります。

(二)リゾール又はリゾホルム

これは二つ共に、一プロセントの割合に水に溶して其の中へ玩具を三十分位入れて置くのであります。

家庭衛生

眼鏡の選擇

荘司秋次郎

眼鏡は如何なる場合に必要かと申しますと、先づ近視、遠視、それから老視の場合に必要になることは何方も御存じのことでありますが、其外に亂視と云ふ眼の異常の時にも必要である、又輻輳不全と云ふて兩方の眼球が平等に寄らぬものにも一種の眼鏡を用ひて宜しいことがあり、尚ほ強い光線を防ぎ或は塵埃を防ぐ目的の保護眼鏡と云ふものもあり、眼に不正な歪のある時に小孔鏡又は裂孔鏡と云ふやうなものを用うることもあり、隨分種々の眼鏡があります、それに又その性質、構造、度もそれ〴〵異つたものがありまして、皆その眼に適當したものを選まねば無效或は有害、少なくとも十分の用をなさぬものであります。

近眼鏡

近視眼と申しますのは、委しく説明すれば大分六ケ敷なりますが、一口に云へば通常眼の奥行が普通よりも長過ぎるものであります、それ故に物の姿が丁度映るべき眼の底まで屆かない、言換へれば光線が眼の底の網膜と云ふ所まで達せずして、その前方に於て集合して仕舞ふのであります、それで物を明瞭に視やうとすれば、眼を近づけて、その物から發する光線を眼の底まで屆くやうにしなければならぬのであります。そこで眼を物に近寄せずに普通の距離で明瞭に視えるやうにするのには何うすれば宜いか

と云へば、網膜の前方で集合して仕舞ふ光線を散らして丁度網膜の上で集まるやうにすれば宜しい譯であります。斯様に光線を開散するのは凹面レンス、即ち中の窪むで居る硝子玉であります、それで近眼の人の用うる眼鏡は皆凹面レンスであります。

それでは近眼の人は何でも凹面レンスでさへあれば宜しいかと云ふと、さうは參りません、これにはその近視の度と云ふものがあつて、それに相當した度の眼鏡でなければ、十分明かには視えない眼鏡の度が近視の度よりも弱ければ十分明かには視えない、又強過ぎれば却て掛けない方が良い、或は却て害がある。それもその眼に依て種々の條件がありますから、何時でも近視の度に丁度相當する度の眼鏡を掛ければ宜しいと云ふ譯にも參りません、これは何うしても專門醫に就て精細の檢査をした上でなければ適當の眼鏡を選むことは困難であります。尤も近視の度よりも弱い眼鏡を選む分には別に害もありませんが、強い眼鏡を用ひますと害があります、餘り強過ぎれば、能く視えないから誰も用ひませんが、少し位強い度の眼鏡なれば、近視眼の人は矢張丁度適當の眼鏡と同様に明かに物を見ることが出來、一時は適切の度のものよりも良いやうに思はれますから、自分で選む場合には大抵その適度を誤まるものであります、所で近視は強過ぎる度の眼鏡を掛けますと、眼がそれに慣れて、遂に眼鏡の度まで進む、而かも一旦進むだ近視の度はこれを後に戻すことは出來ないのであります。殊に若い人の近視にはこの危險が多いから氣をつけなければなりません。

眼鏡の度

これから種々の眼鏡についてお話を致しますが、此處で一寸眼鏡の度と云ふことに就て申上げて置く必要があります。

眼鏡の度には舊式と新式とがありまして、通常の人の用ひて居りますのは舊式の度を云ふのであります、眼鏡屋も大抵舊式の度で云ふて居ります、然るに眼科醫の方では大抵新式の度で言表はしますから

往々間違を來して不便でありますけれども、兩方とも便利な點がありますので一寸舊式を全廢し兼ねて居る譯であります。

要點を申しますと、舊式の方はレンズの燒距を單位に採つて居るのでありまして、燒距と申しますと、レンズの中央と光線がそのレンズを通つて集まる點との間の距離でありまして、略ぼそのレンズの半徑と見て宜いのであります、その燒距一ツォル先づ一寸のものを一度と致しまして、燒距十寸のものはこれを十度と云ふのであります、それで十度のものは一度のレンズの屈折力の十分の一、二十度のものは二十分の一と云ふ譯で、舊式の數字は多くなる程、レンズの屈折力は弱いのであります。つまりレンズの彎曲が弱い程屈折力が弱い、即ち燒距の長い程そのレンズの度が弱いのであります。それで舊式の度と云ふのは屈折力を示すのでありませんから、實は度と云ふべきものでありません、何番のレンズと云ふのが本統であります。

新式の方では、燒距一メートルのレンズの屈折力を基本と致しまして、それを一曲光力と申します、而して舊式のやうに燒距の長さを示すのではなく直接屈折力を表はすのでありますから、數字の上る程、そのレンズの度は強くなるのであります。舊式とは反對であります。故に若し新式の度を舊式に換算致しますのには、新式の一度が丁度舊式の四十番即ち四十分の一に當りますから、新式の度で四十を割れば宜いのであります、例へば新式の二度は舊式の二十番であります。

（以下次號）

蠅を退治せよ

蠅が傳染病の媒介者として最も怖るべきものであることは大抵の人は承知して居る筈である、然るに實際に於ては猶ほ頗る蠅に對して平氣で居る人が多いやうに思はれる、これは畢竟未だ眞にその怖るべきことを知らないからのことである、本誌には傳染病

に關する諸種のお話が掲載されたことも一再に止まらぬが、その都度殆ど必ず蠅の怖るべきことの言はれてないことはない。何うか此の蠅の怖るべきことを一層明瞭に總ての人々に知らしめて、蠅退治の方法を講じたいものである、蠅退治は間接に傳染病退治である、少なくとも最も恐るべき傳染病の一部を防ぐ事が出來るのである、米國にては近年種々の方法を以て蠅の驅除を奬勵して居る、新聞社が懸賞蠅狩を行つたことは嘗て本誌雜報欄に於て紹介したことがあつたが、フロリダ州の衛生局が一般人民に頒布した蠅驅除奬勵の注意書は一見何人にも蠅と衛生との關係が分かるやうに種々の畫が注意書の周圍にあつて、蠅の危害とその豫防法とを通俗に説明して居る、その注意書の原圖と注意文の翻譯が幸此間發刊せられた宮島博士の「動物と人生」と云ふ頗る趣味あり且つ有益なる書物の中に掲載されて居る、今これをそのまゝ左に紹介することゝする。

蠅は塵埃より食物に病毒を齎し、人をして熱病に罹らしむ。

此注意書を熟讀した上、皆さんは、日常食する食物に蠅が集まつて、病毒や汚物をつけぬやう、蠅を絶さなくてはならぬ。よしそれが絶對に出來ぬまでも、蠅が食物に近づかぬやうにするのが肝要である。就ては次に記した事柄を能く心得てゐて毎日實行してください。

蠅は病氣の種子を常に携へて居る。

蠅は種々の塵埃汚物の中に生活して繁殖する。

蠅は其肢で、病氣の種子を飲食物に撒布する。

一疋の雌蠅は一回は百五十の卵を生む。

蠅を人家に入れてはならぬ。

蠅は、牛馬の糞、腐敗した野菜、塵芥や動物の屍體人糞などに發生するものである、實に彼は細菌と同じく自然界の掃除者であるが、若し人家に入つて食物に集まる時は、非常に有害な危險物となるのである。

蠅の居る家は、掃除の行屆かぬ不潔な住居で、必ず

何處かに不潔物の打捨てゝある證據である。

絕對的に清潔にすれば蠅などは忽ち居なくなる、塵埃箱には日々注意して、時々石灰水や石油を撒布し、其蓋を閉ぢて置くことを忘れてはならぬ。

家畜の糞も同樣に處置し、三四日每に掃除して、石灰水を撒布し、且つ其上に砂をかけて置くがよい。

唾壺は特に注意して、蠅の近よらぬ樣、石灰水を入れて置くがよい。殊に停車場、旅舍、寄宿舍などの如き、人の群集する場所では、特に注意しなければならぬ。蠅は特に結核患者の咯痰を好むから、用心しなければならぬ。

結核菌は、蠅の口から這入つて胃腸を通り、其糞と混じて外に出ても、生活して居るから、非常に危險である。

蠅は口や肢に、腐敗細菌や病原菌を附けて、新しい食物を汚すものであるから、食物には蓋をして置くことが肝要である。

傳染病患者の居る部屋は、四方を蚊帳で圍んで蠅の出入を防がなければならぬ。これは患者の不愉快を防ぎ、又病毒の撒蔓を防ぐ手段である。

食物は皆蚊帳で掩ふことが緊要である。これは家庭のみならず、商店などの食料品、殊に生で喰ふ果物や野菜などには、決して怠つてはならぬ。

飮食物を商ふ家の附近に、腸窒扶斯の病人などがあると、病人の居間に居た蠅が店頭に來て、果物などに集まつて病原菌をつける。これを知らずに買つた人が、洗はずに喰ふと、忽ち又腸窒扶斯に罹るから怖るべきことである。

蠅は蓋なしの便所や便器にある腸窒扶斯患者の糞便に集まり、病原菌を口や肢につけて、食堂や臺所に來て食物を汚すものである。此事は米西戰爭の時、實際に經驗された事實である。

蠅を防ぐ最良い方法は、清潔にすることゝ、室內殊に臺所や食堂の窓などには、蚊帳を張つて置くことである。此注意書の周圍の畫を一見すれば、何人も慄然とするであらう。蠅は眞に此畫の通りに惡作を

する。此書を見て胸を惡くするならば、以上に述べたる事柄をよく理解して實行し、かゝる戰慄すべきことのない様に、力めることが緊要である。

此注意書の周圍の畫と云ふのは、一方には痰壺、骨などの這入つて居る廢物入のバケツ、牛舍、犬の屍骸、便所などがあつて、それから大小無數の蠅が反對側に侵襲して行く、其處には何か書いてあるかと云ふと、哺乳罎、果物、肉、料理、クリーム、などがあつて、眞に胸が惡くなるほど蠅が集まつてゐる、それから食卓に就いた男女の人が蠅群に呆然たる所があり、窒扶斯患者が寢臺は横はつて居る所に無數の蠅が匍い廻つて居る有様が畫てあるのである。

地震、雷、火事、親父

地震　地震は何時起るか今日の所では未だ豫知し難い、尤も數秒乃至數分前になれば多少の兆がある、雉子が鳴くとか、地鳴がするとか云ふことである。

地震の災難を免れやうと云ふには、先づ地盤の堅い土地に、堅固な耐震家屋を建てゝ住むことである。

東京で地盤の堅い所と云へば山の手で、軟い所は下町、殊に本所、深川、淺草である、但し淺草の元鳥越町邊は昔は高臺であつた爲に地盤が堅い、それから銀座も昔から水の上に出て居つた所だけに他の埋立地に比して堅い、安政の大地震の時にも、一軒も倒家がなかつたと云ふことである。神田小川町などは昔の所謂神田淵の跡だけに殆ど丸潰れの有様であつた。

地震は大抵百年目に一回大きいのが來る割合になつて居る、今年は江戸の最近の大地震があつた安政二年から五十九年目である。而して大地震は大抵夏である。

これは家庭衞生と云ふ欄の註文であるから餘り雜多な事を述立てる譯にも行かぬ、實際大地震の際の遁計に就ての注意に止める。

一　火の用心

ランプ、瓦斯燈、總て火は直ちに消さなければならぬ。暗闇で困るならば蠟燭の火で間に合はせること。

二　外に飛出すか内に居るか

未だ瓦が落ちず、家が毀れ始めぬ中に、安全な廣場に逃れ得る見込があれば外に出る、出るに就ては少なくとも麥藁帽子を被るとか、傘をさすとかして頭の用心が必要である。東西にゆる時は南北の方向に逃げなければならぬ。平家は大抵家の幅の狹い方に倒れる。土塀殊に煉瓦塀は危險である、切角飛出したものも大抵斯樣なもので壓潰されるのが多い。瓦が落ちるやうになつたならば寧ろ内に居つた方が安全である。

三　家の内では何處に居るか

煉瓦造は二階以上が破壞することが甚しい、木造なれば二階以上が比較的保たれる、金庫、簞笥、本箱、寢臺の如き堅固なものを楯に取つて、梁に敷かれぬ用心をする。大きな壁に落ち掛かられぬやうに氣をつけねばならぬ。

雷　避雷針を完全に設置した家の内に居れば安全である。

雷鳴の激しい時に郊外を歩くは危險である、高い木の下は危險である。傘の尖端の金具、金屬の簪、總て危險である。落雷の時は立て居るよりも伏つた方が宜い。屋外で雷に逢はゞ決して偉らがつたり圖々しくせずに人の家に逃込むべきものである。

線香を炷いて蚊帳の内に小さくなつて居るのは宜い方法である、更に家屋を蔽ふ程にどん〳〵煙を盛に起て、三階の下の廣間の眞中に麻の蚊帳を五六枚も重ねて吊つてその中に居れば一層安全である。

火事　家屋家具等の燒失するのは諦めることゝして兎に角身體生命を完ふする事が第一である。小兒等は一番先に安全な家に託さなければならぬ。煙に卷かれた時は鼻を地に擦つける位にして匍匐して外に出なければならぬ。

二階三階に居つて。梯子が燒落ちた場合には、麻繩を窓柱に結び付け、それを傳はつて降る、高樓には平素必ずこの用意がなければならぬ。或は三丈もある長い底拔の嚢を備へて置いて、いざと云ふ場合には、これを垂れて斜に固定しその内を潜つて辷り降るのである。斯樣なものがない場合には已を得ぬから、帶なり細紐なり繋ぎ合はせて窓から垂れて、それを傳つて逃ればならぬが、下まで屆かぬと思つたならば、夜具蒲團を投げ下して、その上に飛降りなければならぬ。

大火の場合には必ず風上の方に逃げることを忘れてはならぬ。

親父　これは親孝行さへ心掛くれば宜しい、而かも一番六ケ敷い、不孝を免るゝは容易でない、自ら滿足に孝を盡し得たと自信し得る人は馬鹿か聖人である。

病室の整頓

病室と云ふものは、病院でも自宅でも決して愉快な室ではない、それにつけても看病する人は、病人の狀態を考へて、出來得るだけ快よからしむる工夫をしなければならぬ。これには病室內の整頓と云ふことが第一である。

病室整頓の要領は、先づ不要の物を室內に置かざる事である。必要品は必ず一定の場所に正しく置く事である、清潔は隅々まで行渡らなければならぬ。これを要するに病室は常に清爽して、正整となつてゐなければならぬ。永い間臥牀して居る病人には、寢具及び身體の清潔に注意するは勿論、褥瘡などの出來ないやうに氣をつけなければならぬ、褥瘡を生ずるは看病者の恥と云をても宜い、室內に臭氣ある如きは最も忌むべきことである。

不必要の品を室內に置かぬと云ふことは病室整頓の要點であるが、盆栽、生花等を枕邊に置いて屢々花

を插換へ、盆栽を取換へると云ふことは、非常に病人の慰となるものである、平素餘り斯様の趣味を有せぬ人でも病氣の時には、いひしらぬ趣味を見出すものである。但し香氣の強い花は人に依て好嫌があり、例へば百合花などでも人に依ては頭痛がする、甚しきは嘔氣を催すと云ふ人もある、殊に病氣の際は嗅覺の非常に過敏になる場合が少なくないから、その點も考へなければならぬ、尚ほ夜間は室外に持出すやうにしなければならぬ、これは人の爲にも植物の爲にも宜しいのである。同じ理由から畫幅を牀に掛け、寫眞帖などを枕元に置くことも必要である、これも可成人事にかけはなれた山水、風景の畫が適當である。

病人の精神を慰め、退屈を防ぐと云ふことは非常に大切な事柄で、病人の經過を良くする上に於て、病室の日當りの良いことゝ風通しの良いことにも劣らぬ效があるものである。病室の整頓と云ふことには此邊までの注意が行屆かなければならぬ。

鼻加答兒の療法

ダンテールと云ふ人は、鼻加答兒の療法として次の如き方法を稱揚して居る。

即ち鼻風のときには、新鮮なる冷たい空氣を鼻で以て強く呼吸するのである、さうすると分泌物の排泄がよくなり、粘膜の腫脹も減き、血液の循行も遲徐になりて治癒すると云ふのである、その理由は空氣を強く呼吸し、又冷たい空氣と温い空氣と交互に通るので、それが局部の刺戟となつて效を奏するのであらうと云ふて居る。

頓醫方

素人療治、手療治を勸める譯ではないが、家内に急病人が發生した場合に、醫師が來て與れるまで袖手傍觀する譯に行かぬ場合がまゝある、斯様な際には、可成眞の治療法の仇にならぬやうに顧慮して　卽坐

に出來得るだけ臨機應變の處置を試みなければならぬ。

例へば

氣を失つた場合には、顔に霧を吹掛ける、或は冷水に浸した手拭を以て頬や胸を敲く。顔が赤ければ枕を高くし、蒼ければ足を高くする。

例へば

腹痛甚しければタオールを熱湯に浸して腹を溫める。

例へば

引つけたときに芥子を捏つて足の裏に貼る。

例へば

原因不明にして頻に嘔氣、嘔吐を催す時には燒瓦に水を注いで、その水を飲ます或は冰を飲す。

例へば

血を吐く時には、濃い鹽水をグイと一杯飲ます。

例へば

血の出る時には、劍の上の方、卽ち心臟に近き處を布或は紐にて縛る。

例へば

火傷(やけど)の時には、水に浸し或は油を塗る。

例へば

溺死したる時には、腹を壓して水を出し火にて溫むる。尙ほ胸や腹を兩手で規則正しく幾度も繰返し〳〵壓して呼吸せしむる。

例へば

骨を折つた時には、板或は厚紙等を當てゝ紐にて縛る。

例へば

日射病の時等には、涼しくして、水を灌注し或は飲ませ、又酒類を飲ます。

例へば

毒物を飲んだ時には、多量の水を飲ませて咽頭内に指或は鳥の羽を插入して嘔吐を起さしむ。

例へば

瓦斯の中毒にて倒れたる時には、速かに空氣の流通

を佳良ならしむるか或は新鮮なる場處に移す、此時も人工呼吸を試みる。

斯樣な事は普通誰も承知して居るが、扨て急場になると狼狽して、爲し得べき適當の處置が出來ないものである。

糠味噌は不潔物か

日本人は西洋人を牛糞臭しと云ひ、西洋人は日本人を糠味噌臭しと云ふ。糠味噌の臭は我々、日本男兒も少々避易するから西洋人がこの臭に打たれて慄上るは尤な次第である、而して不潔物乃至腐敗物かの如く恐入るのである。然るにこれを科學的に檢査して見ると無菌である、黴菌は居らぬと云ふことである。實際これに就て醫科大學衛生學教室の依田學士が研究された所に據れば、糠味噌は著しい殺菌力を有して居る、その成績の概要を摘記すれば左の如くである。

一、糠味噌の中では病原菌は一日以內に死んで仕舞ふ。

二、瓜や茄子を糠味噌に永く漬けて置いて酸くなる程效力が增す。

三、糠味噌は固いよりも柔かくゆるい方が殺菌の效が著しい。

四、冬よりも夏の方が殺菌力が強い。

五　每日使はないと殺菌力が減ずる。

これに依て觀れば糠味噌は、その外觀を臭氣との不良なるに拘らず頗る衞生的のものであると云ふことが分かる。尙ほ糠味噌は稍々柔かく造り、漬物は一日以上漬けて少し酸味が出たときに食すれば、無菌の香の物である。又夏の漬物法として適當で、且つ每日攪拌するのが宜しいと云ふことが分かる。



雜報

○日本人の身長増加

我が國民の體格が學校其の他一般社會に於て漸く體育の必要を認識したるため年々發達の傾向を持續するのは國家の爲め喜ぶべき現象にして是れを立證するには學生生徒間の檢査結果にても知るを得べきも今明治二十七年より同四十四年に至るまでを二箇年毎に調べたる壯丁の數を以て見れば(身長のみに付)

年次	五尺四寸以上	五尺二寸以上五尺四寸未滿	五尺以上五尺二寸以下
二七年	一〇、一一	三二、〇三	三七、八八
二八年	一〇、四八	三二、四三	三七、五三
三一年	一一、四三	三三、四七	三七、三一
三二年	一一、七三	三三、九六	三六、八九
三五年	一二、八六	三五、〇六	三六、〇八
三六年	一三、九九	三五、九六	三五、三九
三九年	一四、九四	三六、八六	三四、六五
四〇年	一五、五八	三六、七七	三四、五九
四三年	一六、〇一	三七、三五	三三、八五
四四年	一六、四六	三七、五七	三三、七一

右の如く明治二十七年以降逐年身長は増加しつゝあるも胸圍體重に至りては年により此反對の數を表すことあり而して都會に住む壯丁は郡部よりも身長の増進する傾あれども胸圍體重は之れに反するなり殊に近來都鄙ともに花柳病が壯丁間に増加しつゝあるは如何にも寒心すべきことにして之が豫防を計らざれば折角身長の増加も何等の效果を奏せざるべく本年の結果につきては檢査未終に付き不明なるも概して花柳病増加したるの傾ありとは某檢査官の語るところなり。

○電氣に關する注意

電氣の取扱方に關し一般に注意すべき事項が先日の官報に掲載せられたるが、その中にて各人の心得て居るべき要點を摘記すれば左の如き事柄なり。

(一)電柱や電線には一切觸るべからず殊に電柱の

赤く塗つてあるもの、降雪、暴風雨、雷鳴等天候の異常ある時には危險である。

(二) 近所に火事があり、電柱の燒けんとする時でも素人が刃物等で電柱を倒し電線を切るのは危險である。

(三) 電柱、電線腕木などから火を發したら直ちに警官又は電氣事業者に通知する必要がある。

(四) 電線が切れて下つてゐても迂濶觸つては宜しくない凡べて線を乾いた厚い布で包み、乾いた竹や木で間接に觸つて見、其間乾た靴又は下駄でゐるが善い。

(五) 室內電線は障子に挾まれて擦切れるのもあり、球が疎漏で擦切れる事もあるそんなのを打棄てゝ置くと不時に發火する事がある又金屬類に近附けたりすると電氣の漏れる虞がある斯う云ふ時には凡べて引込に開閉器を捻つて電氣を遮斷するに限る。

(六) 凡べて電氣の道具類を濕つたもの濕つた手で摑む事が嚴禁である。

(七) 電氣の爲に氣絶した者があつたら竹の尖などに乾いた布を捲いて電線を摑み被害者を引離し人口呼吸を行ふことである。

○海上の出產

此程千五百名の移民を南米伯剌西爾に送りました郵船會社の若狹丸にては、目的地までの航海日數三十七日間に都合十四名の出產がありました、其都度船長は名附親となり船內のお醫者は大多忙で又大陽氣でありましたが、茲に最も都合の好かつたのは移民中彼の地で產婆を開業する女が一人ありまして、渡航中恁く多數の出產者あるは自分の稼業の繁昌する前兆であると大喜びで、產兒を一人々々取上げ猶出產後何呉れとなく親切に手當を加へましたから、母子併せて二十八人何れも健やかに彼地に上陸しましたとは珍らしくも又目出度き話ではありませんか。

○山梨縣の家庭衞生講習會

同縣に於ては、衞生思想普及の方法として、從來衞

小講話會竝に衞生講習會等を開催して其鼓吹に努めつゝ居れるも該會に會同するもの概ね男子のみにして、婦人の參會せるもの殆んど少なく、且つ男子は之れを聽取するも、實際之れを家庭に應用實行するの機會甚だ少なきの感あり、惟ふに國民衞生思想發達の源泉は家庭にあり、故に專ら家庭を主宰し若くは將來其位置に當るべき婦人に、之れが講習を施すは最も必要にして自然衞生思想を普及せしめ、衞生的子女を敎養し、善良の風習を馴致せしむる點に於て、頗る效果あるものと思料せられたるに付き、今回簡易衞生講習會を縣下各須要の地に於て、一ケ所に對し一日四時間宛、一ケ所四日間の豫定にて現に開催施行しつゝあるが、參會者各地とも毎日三四百名に上り、其成績頗る良好なりと。

○傳染病傳染經路の掛圖

內務省の調製に係る結核及び消化器性傳染病の傳染經路を通俗的に繪畫に示したる掛圖は、衞生展覽會及び醫生講話會等の材料に適當にし、往々頒布希望の申出あるより、同省にても衞生思想普及の一法と認め、印刷に附して實費を以て配附することゝし、これが豫約方（十五枚一組印刷實費金五圓四十錢）につき各地方廳に通牒したりと。

○火葬場の市營案

東京市にては、大阪堺兩市の如く火葬場を市營にせんとの議あり、これ現在市內六箇の火葬場はその料金意外に高く、而かも設備不完全なるが爲に、…方この缺陷を補ふと共に、市の財源ともならんとの趣旨に出たるものなりと、同案の大體は、市の郡境に於て東西南北の四隅に各十萬圓以上十五萬圓以下にて火葬場を新設し、其の接續地に相當面積の墓地竝に齋場をも建設せんとするにありと。

○秋蒔草花種子の無代配布

例年の如く岡山縣邑久郡長船農事試驗場草花部送費袋代郵劵拾錢にて送與する西洋新送花は左記の各種なる由通知ありたり。

○新輸入極大輪三色スミレ

○同最新種美人草　○同優等ナデシコ
○同優等罌粟　○同優等翠菊
○同シスターデージー　○同豹斑金鶏草
○同最新種大輪矢車草　○同最新種ペチユニヤ
○同カリホルニヤポツピー　○同黒色スミレ
○同萬重カレンジユラ　○同矮生スカヒオサ等

○日本赤十字社京都支部の避暑保養所

日本赤十字社京都支部結核豫防調査委員會にては、避暑保養所設置方法を左の如く定め、此度愈々由良海濱に之を設置するの計畫を立て、猶これが經費豫算は保養所一個所につき金參百八拾圓、其收容人員は百人の見積なりと云ふ。

避暑保養所設置方法

第一、毎年夏季ニ當リ適當ノ地ニ避暑保養所ヲ設置シ身體薄弱ナル兒童並腺病質ノ兒童ヲシテ之レガ體質ノ改良ニ力メ以テ結核豫防ノ一助トナサントスルニアリ

第二、當分ノ中保養所ヲ船井郡園部公園、加佐郡由良海濱、與謝郡宮津ノ三個所ニ設置スルモノトス但場合ニ依リ公園一個所海濱一個所ノミニ開設スルコトアルモノトス

第三、收容人員ハ園部公園百名、由良海濱百名、宮津海濱二百名ノ豫定トス

第四、保養所ノ管理ハ各所毎ニ當支部役員一名出張シ兒童ノ監督ハ最寄小學校教員若干名ニ、衛生及救急治療ニ關シテハ地方開業醫ニ囑託スルモノトス

第五、當支部ヨリ各保養所ニ提供スルモノハ概ネ左ノ如シ

イ、保養者ノ宿泊スベキ家屋及薪炭油並浴槽
ロ、蓄音機及風琴、圖書、室内遊戯用器具、教育的玩具等
ハ、一個月凡ソ三回施行シ得べキ福引景品
ニ、炊事用具一式
ホ、救急藥及消毒藥

第六、炊爨ハ炊事夫ヲ雇入當支部出張員監督ノ許ニ其地方ニ於ケル産出物ヲ以テ適宜自營炊事ヲ爲シ父兄ヨリ其實費ヲ申受クルモノトス

第七、入所者ハ父兄又ハ保護者ノ依頼ニ依リ承諾スルモノトス但疾患者ニシテ特別ノ保護ヲ要スルカ若ハ傳染ノ虞アルモノハ謝絶スルコトアルモノトス

第八、保養所ニ於テハ左ノ各項ヲ實施ス

イ、森林或ハ海濱等ニ於テ新鮮ナル空氣ニ接觸セシムルコト

一、毎日午前七時ヨリ午後六時迄森林或ハ海濱中適當ノ地ニ於テ生活セシム

二、其他海水浴等兒童ノ體質ヲ顧慮シテ適當ノ處置ヲナスモノトス

ロ、適當ナル運動ヲナサシムルコト

一、一定ノ區域内ニ於テ隨意散歩セシム

二、教師引率シテ公園内又ハ海濱等ヲ散歩セシム

三、教師指揮ノ下ニ團體的體操若ハ遊戲ヲナサシム

ハ、必要ナル安靜ヲ保タシムルコト

一、食事ノ前後ニ於テ約三十分ヅヽ安靜ヲ保タシム

二、午後一囘午睡ヲナサシム

ニ、精神的慰安ヲ與フルコト

一、風琴ヲ備ヘ時々唱歌セシム

二、蓄音機ヲ使用ス

三、お噺會ヲ開催ス

四、室内遊戲具ヲ備ヘ雨天等ノ際ハ之ニ依リ娯樂セシム

五、立志的若ハ教育的圖畫ヲ備ヘ隨意縱覽セシム

六、教育的玩具ヲ備ヘ隨意玩弄セシム

七、凡ソ十日間ニ一囘福引會ヲ催フシ景品ヲ與フ

ホ、滋養食ヲ攝取セシムルコト

一、炊事ハ日本料理(可及的獻立變更)米食トス

二、毎日午後一囘間食ヲ與フ

但麵麭、落花生、取餅、果物ノ類

三、飲料ハ總テ煮沸セシ者ヲ與ヘ時々牛乳(「コンデンスミルク」)ヲ以テ間食ニ代ユルコトアルモノトス

ヘ、豫防消毒及救急ノ準備ヲナスコト

但其方法ハ時宜ニ應ジ隨時之ヲ施行スルモノトス

ト、健康診斷及身體檢査ヲ爲スコト

一、毎日半數ヅヽ健康診斷ヲ行ヒ且ツ一週間毎ニ胸圍體重等ノ檢査ヲ行フ

チ、入所員ガ小學校生徒ナルトキハ適宜ノ學科ヲ復習セシム

以上ノ方法ニ依リ左ノ結果如何ヲ調査スルコト

(一)體重増加ノ如何　(二)榮養ノ良否

(三)食慾増進ノ有無　(四)體質強ノ程度如何

(五)精神快活ノ狀態如何　(六)動作敏活ナリシヤ否

(七)夜中安眠ナリシヤ否其他

前髪心の覇王　美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺中	貳匁四分
壹尺貳寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをして足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと欲ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看護法等の如きはいとも緊要の事にして特に是等婦人のもつばら與るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相繼て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意をむかざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上萬般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子に編輯し會員に分ち頒か同胞の爲めに盡さんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十一月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を増進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし　入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）　入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身特別及通常の三種とす　終身會員は一時に金廿五圓以上　特別會員は一ヶ月金三拾錢以上　通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ　但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし　但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に評議員を置き其中より總裁一名を戴し皇族の妃殿下に願出るゝのとす

●第十條　本會に左の役員を置く
會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員三十名　書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は每年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に依り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け新記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計　第二編輯出版　第三庶務とす

●第十三條　臨時指名委員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして注意聽講せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽さしむることを得べし但衣服は總て質素たるべき事

●第十九條　講義演說等は小兒の傍聽を禁ず

●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後會員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其會費を支會より本會に送付すべし　支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金即若くば附寄物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を帳簿に登錄し且本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべし　但し地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送設として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて以除番號東京一○六○○番本會事務所宛に振出さるべし

●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は廢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目廿二番地　私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山木多穗子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 羽田三緒子
同 高木鐐子
同 三浦敬子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池峯子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正二年九月十七日印刷
大正二年九月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 菲司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 眞明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店